

平成 27 年度
日野市高齢者見守り支援ネットワーク
事業報告書



平成 28 年 4 月
日野市健康福祉部高齢福祉課

－ 目 次 －

はじめに「本業務の概要」	1
本業務の目的	1
これまでの経緯	2
第1章「既存の取組の実施支援」	3
1－1 見守り支援ネットワークを構成する取組	3
1－2 個別の取組の実施状況	4
1-2-1 ふれあい訪問調査（はつらつ・あんしん調査）	4
1-2-2 「見守り・声かけ」	6
1-2-3 ふれあいサロン	8
1-2-4 ちょこっと困りごとサービス	12
1－3 個別の取組の成果と課題	14
第2章「気かけ運動の展開」	17
2－1 気かけ運動の概要	17
2－2 地域展開の実施状況	18
2-2-1 出張説明	19
2-2-2 相談窓口の設置	24
2－3 地域展開の成果と課題	26
第3章「ネットワークの課題解決のための検討」	27
3－1 検討の進め方	27
3－2 検討の実施状況	28
3－3 検討の成果と課題	34
第4章「事業PRの実施」	35
4－1 事業PRの進め方	35
4－2 事業PRの実施状況	36
4-2-1 ニュースレターの作成・配布	36
4-2-2 地域懇談会への参加	40
4－3 事業PRの成果と課題	41

はじめに「本業務の概要」

本業務の目的

(1) 見守り支援ネットワークの基本的な考え方

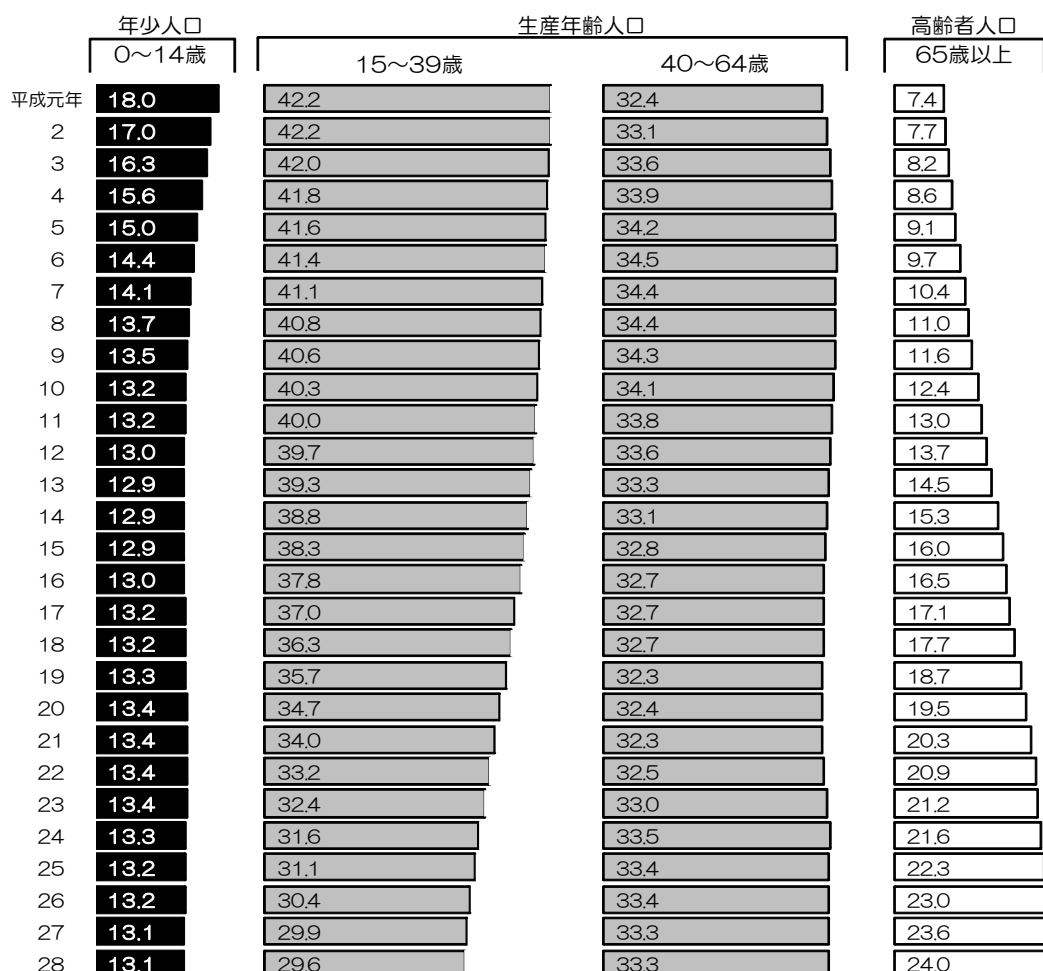
住み慣れた地域で支えあい、安心していきいきと暮らせるまち

近年、日野市の高齢者人口は1人暮らし世帯や高齢者のみ世帯を中心に増加を続けています（平成28年1月1日現在43,783人、高齢化率24.0%）。高齢者人口の増加に伴う虚弱や要介護となるおそれのある高齢者の増加、核家族化の進行に伴う家族による介護機能の低下、都市化傾向の進展による近隣コミュニティの結びつきの希薄化などを背景に、孤立死のような不幸な事件も起きています。

高齢者福祉の分野では、特に身近な「地域」で高齢者の生活を支える仕組みづくりが最重要課題となっており、日野市では、こうした社会的にも孤立しがちな高齢者を地域での支えあいを通じ見守り、支援する「高齢者見守り支援ネットワーク」の構築によって「安心していきいきと暮らせるまち」づくりに積極的に取り組んでいます。

(2) 本報告書の位置付け

本報告書は、上記の目的を達成するために平成16年度から取り組んできた「日野市高齢者見守り支援ネットワーク事業」の平成27年度の活動内容をまとめたものです。



※住民基本台帳による人口をもとに作成

これまでの経緯

「ふれあい訪問調査」等の情報に基づいて、基本型と位置づけた“見守り”“声かけ”の活動を出発点に、ネットワークをより大きく、緻密なものへと育ててきました。

年度	テーマ	特徴的な取組
H16	○資源・ニーズの把握 ○モデルシステムの構築	・市内の高齢者を対象とした「ふれあい訪問調査」や事業所を対象とした“連携可能性調査”を実施し、「現在は元気で自立しているが健康面が不安なひとり暮らし高齢者」などの対象となる高齢者像と具体的な支援内容を5つのパターンにとりまとめ
H17	○モデルシステムの試行・評価 ○事業計画づくり	・市内4つのモデル地区で19人の対象高齢者、30人のふれあい見守り推進員とともに“見守り”“声かけ”の支援を試行 ・この成果をもとに、「週1回のさりげない見守り」「月1回程度の玄関先での声かけ」の活動を全市へ2カ年で展開する計画を作成
H18	○地域展開スタート	・前年度に設定した目標に従って市内各地で順次ネットワークの立ち上げを行い、市内のちょうど半分で活動がスタート ・立ち上げにあわせて「見守り支援ネットワークフォーラム」を開催したほか、2回目のふれあい訪問調査も実施（以降毎年実施）
H19	○基本型の全市展開 ○新しい活動の芽生え	・平成18年度から始まったネットワークの立ち上げが完了し“見守り”“声かけ”が遂に全市に広がる ・活動の中から見えてきた課題に対する新たな展開として「百草ふれあい協議会」による「ふれあいサロン」の開設を準備
H20	○ネットワークの拡大	・「ふれあい交流型」活動を継続的に支援するための要綱を策定 ・や5つのパターンの最後の1つ「お世話・お手伝い型」にあたる「ちょこっとお手伝いサービス」を新たに立ち上げ
H21	○活動の継続実施 ○新たな活動方針の検討	・対象高齢者や見守り推進員の拡充、サロン「よりみちさくら」の新規開設など既存の活動のフォローアップを実施 ・立ち上げ当初の計画がおおむね狙い通りに実施されたことから、課題の解消と更なる活動の充実を目指して新たな活動方針を検討
H22	○ネットワークの次なる展開	・既存の活動と並行して、平成21年度に検討した新たな活動方針の1つである「気かけ運動」の企画検討に着手 ・見守り支援ネットワークのPRの一環として、高齢者月間にあわせて市役所ホールを会場にパネル展を開催
H23	○全市展開から丸5年の振り返り	・平成18年に“見守り”“声かけ”の全市展開を開始してから丸5年が経過したのを記念して、これまでの活動の振り返りや今後の展開を考えるシンポジウムを大々的に開催
H24	○「気かけ運動」の積極的な展開 ○事業PRの展開	・「気かけ運動」の展開にあたって、従来の手あげ方式から、こちら積極的に地域を訪問して「勉強会」を開催する方法を試行 ・「気かけ運動」の展開とあわせて、広報ひのや「市民活動フェア」に参加して、見守り支援ネットワーク全体のPRを積極的に展開
H25	○調査方法の改善 ○「気かけ運動」の継続展開	・ネットワークの展開を検討する際の基礎資料の1つとなっていたふれあい訪問調査（はつらつ・あんしん調査）の実施方法を改善 ・「気かけ運動」の展開を継続しながら、市民活動フェアや「地域かわら版」にて取組のPRを実施
H26	○「気かけ運動」の一般化と拡大	・「気かけ運動」の狙いや基本的な活動イメージをまとめた「気かけ運動の手引き」等を作成 ・「手引き」とチラシを用いてより多くの地域への働きかけを実施
H27	○10周年記念シンポジウムの開催	・モデル地区での試行から10年が経過することを記念して「見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム」を開催 ・シンポジウムでは、協力者の方々の労いとこれからの見守り支援ネットワークを考えるヒントを得るための講演等を実施

第1章「既存の取組の実施支援」

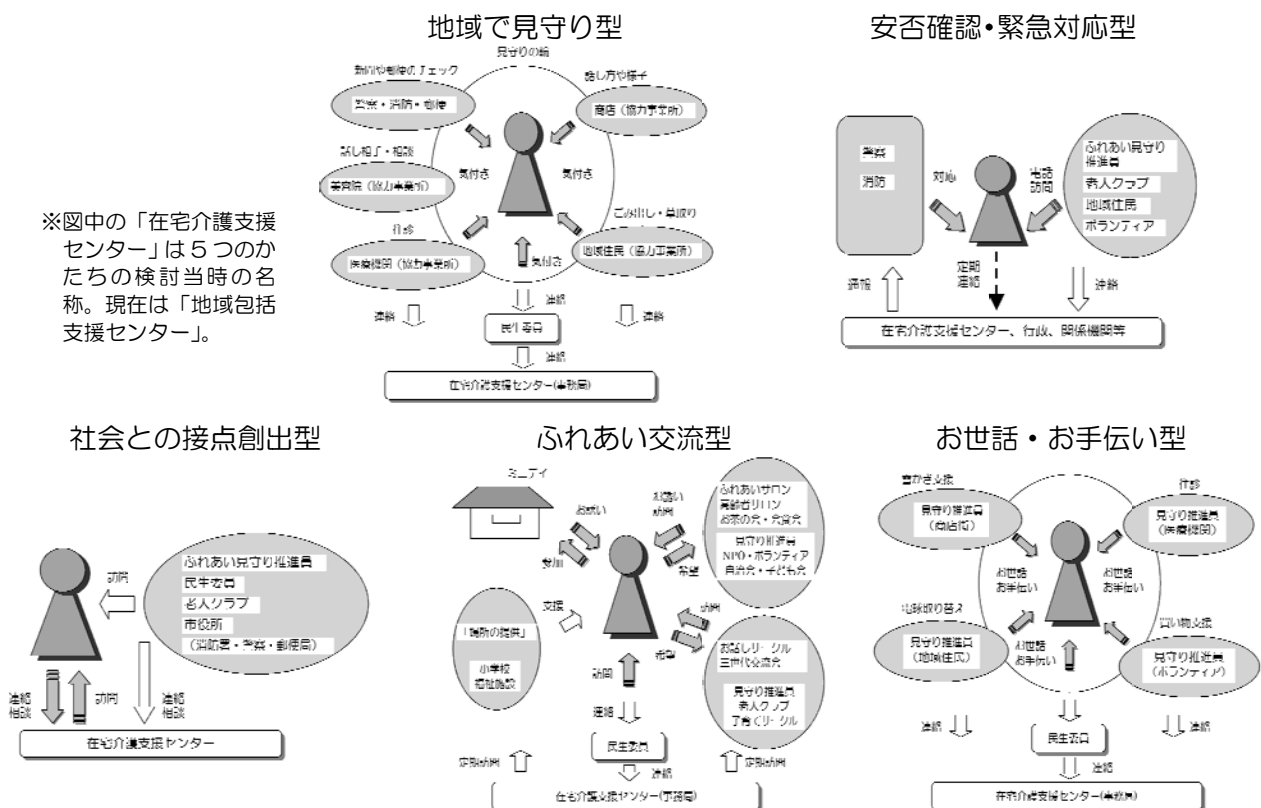
1-1 見守り支援ネットワークを構成する取組

見守り支援ネットワークの構築にあたって高齢者の生活実態を調査し、対象とすべき高齢者像とそれに対応した見守り支援の雛形となる5つのかたち（パターン）をまとめました。

5つのかたちにまとめられた見守り支援活動を展開するにあたって、支援内容の緊急性や実際に立ち上げるのに必要な準備などを考慮して、「地域で見守り型」「安否確認・緊急対応型」の2パターンを「基本機能」、これを除く残りの3パターンを「追加機能」に分類し、段階的にネットワークの構築を進めてきました。

現在、見守り支援ネットワークでは、5つのかたちを体現する下記の4つの取組と次章に掲載する「気かけ運動」を実施しています。

▼見守り支援ネットワークの5つのかたち



▼現在実施されている4つの取組



1-2 個別の取組の実施状況

1-2-1 ふれあい訪問調査(はつらつ・あんしん調査)

(1) 取組の概要

見守り支援ネットワークの主な対象である市内の高齢者に対して、生活の状況や満たすべきニーズを把握するために毎年実施しているのが「ふれあい訪問調査」です。本調査は、①高齢者の生活状況を把握し、②高齢者と直接顔をあわせる機会となり地域の中で「誰も知らない」高齢者を減らすことができるため、市の高齢福祉施策・地域福祉力づくりを検討する上で必要不可欠のものとなっています。

平成24年度までは、地域の民生委員が民生委員法に定められた職務に基づき、対象者宅を1軒ずつ訪問して調査票を回収する方式をとっていましたが、対象者の増加にともなう負担の軽減と類似調査との重複の解消を目的として、平成25年度から以下の方法で調査を実施しています。

▼調査の概要

	～平成 24 年度	平成 25 年度～26 年度	平成 27 年度
調査対象	<3年に1回の全件調査> ○当該年度の4月1日現在、75歳以上の方 <差分調査(全件調査に該当しない年)> ○前年度の3月31日から当該年度の4月1日までの間に新たに75歳に到達された方または日野市に転入してきた75歳以上の方 ※いずれも特定の施設に入院・入所等している方を除く	下の全てに該当する方 ①当該年度の4月1日現在、65歳から74歳までのうち奇数年齢の方及び75歳以上の方 ②介護認定を受けていない方、未申請の方 ③特定の施設に入院・入所等していない方	下の全てに該当する方 ①当該年度の4月1日現在、65歳以上のうち奇数年齢の方 ②、③は左と同様 ④生活保護を受給していない方
調査内容	①世帯の状況 ②日中1人暮らしの状況 ③生活上不安なこと ④日常の移動能力 ⑤自治会等への個人情報提供の可否 ⑥周りとの交流の状況 ⑦見守り支援ネットワークへの参加希望	・左記①、②、③、⑦ ・はつらつチェック票で実施する質問 (介護予防事業(二次予防事業)の候補者を把握するための30問) ※④～⑥については上の30問の中で同種の質問を実施するため省略	・左記①～⑦
調査方法	・郵送配布／訪問回収	・郵送配布／郵送回収	
民生委員の訪問	・調査票を回収するため、調査対象者宅を全て訪問	・郵送による返送が無かった方のうち75歳以上の方のお宅を訪問して市への返送を促進 ・上の訪問とあわせて、新たに75歳に到達された方、75歳以上の転入者のお宅を訪問して資料を配付	

(2) 取組の実績

- ◇ 今回の調査では、65 歳以上 13,996 人、75 歳以上 6,492 人から回答を得ることができました。
- ◇ 全体の回収率は 3 ポイント弱低下していますが、民生委員の方々に追加回収をお願いする 75 歳以上の対象者に限定した回収率は 94.2%と極めて高い数値となっています。これは、民生委員の方々の変わらぬご尽力はもちろんのこと、調査対象者を変更したことで回収作業の負担が軽減したことが要因と考えられます。
- ◇ 見守り支援を「お願いしたい」「推進員をやってみたい」という方の割合は、それぞれ 5.0%、0.7%で前年度と大きな違いは見られません。

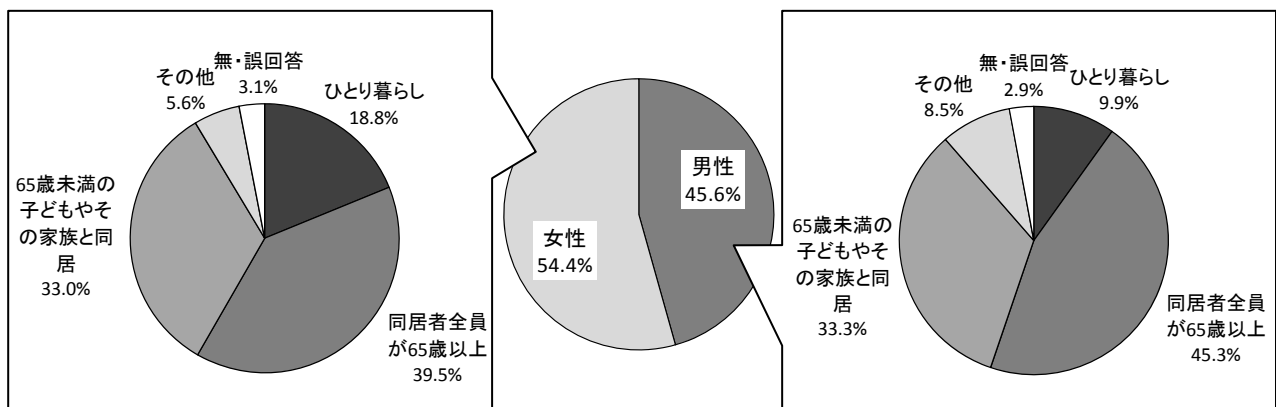
▼調査票の配布・回収状況

年度	総数		うち 75 歳以上		
	送付数	回収数 (回収率)	送付数	回収数 (回収率)	うち在宅※1
平成 27 年度調査	17,872 人	13,996 人 (78.3%)	6,894 人	6,492 人 (94.2%)	6,453 人 (93.6%)
【参考】平成 26 年度調査	23,187 人	18,778 人 (81.0%)	12,958 人	11,624 人 (89.7%)	11,435 人 (88.2%)

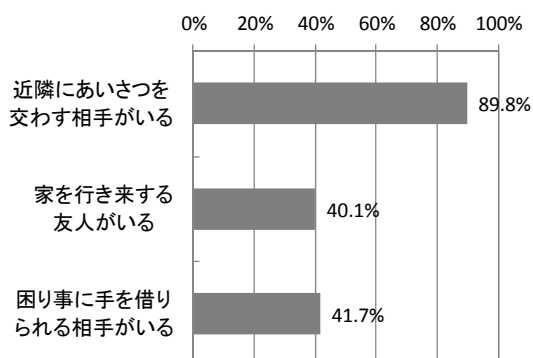
※1 回収数から調査後の施設入所・異動を除いた数

▼調査結果の概要

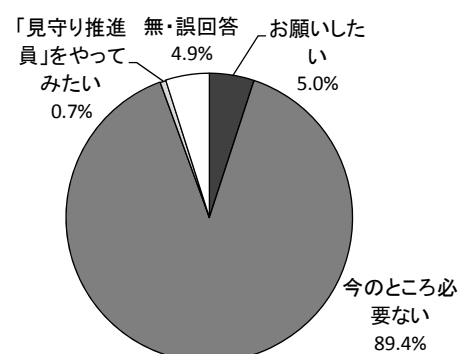
【世帯の状況】



【日常の交友状況】



【見守り支援ネットワークへの関心】



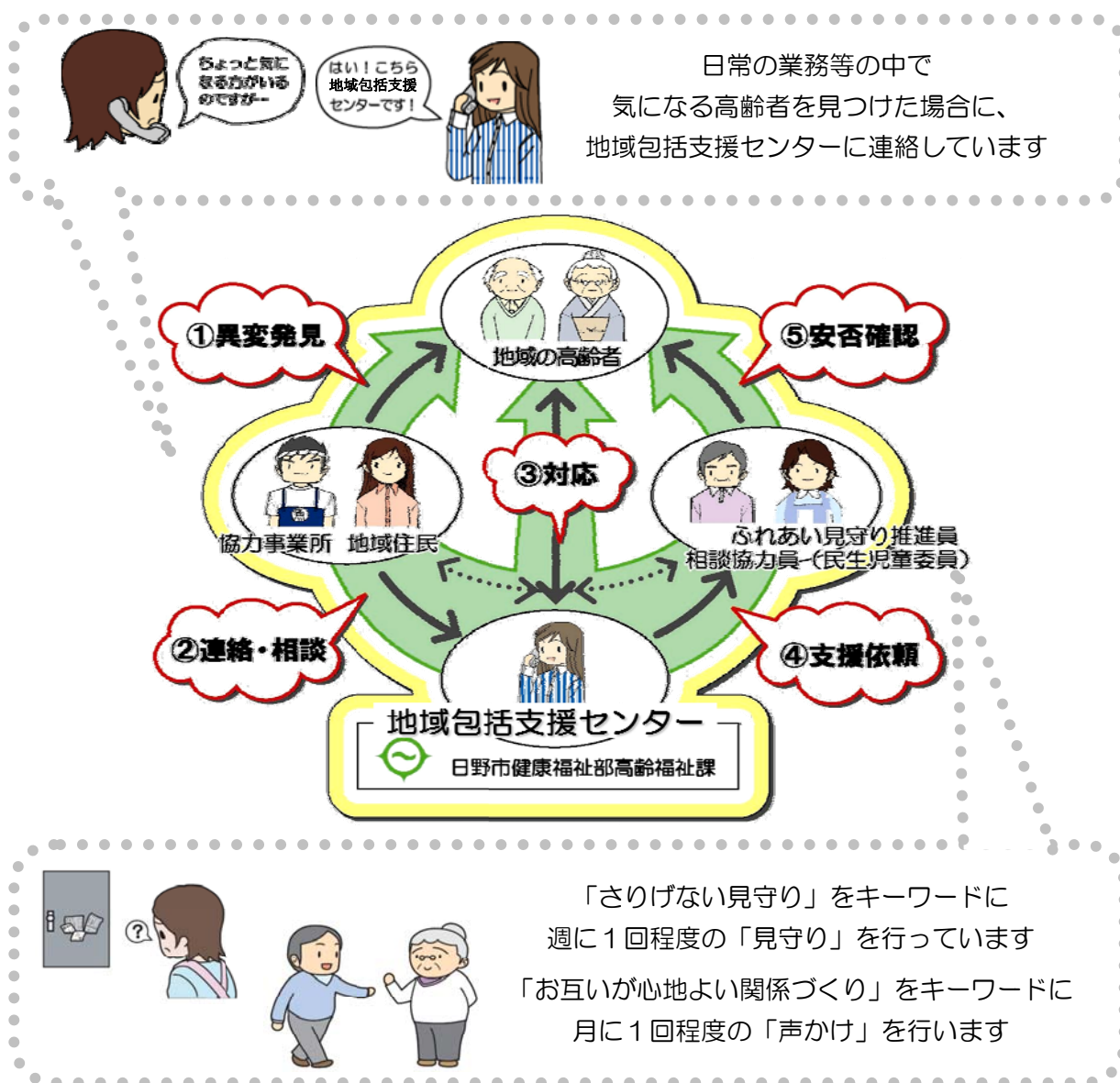
1-2-2 「見守り・声かけ」

(1) 取組の概要

地域の「ふれあい見守り推進員」「協力事業所」を中心に、地域での「見守り」による異変発見から定期的な安否確認の「声かけ」までを繋げる日野市の高齢者見守り支援ネットワークの基本型となる取り組みです。

平成17年度にモデル地区4地区でスタートしてから丸10年、平成19年度末に活動が日野市全域に広がってからも丸9年が経過し、地域の多くの方の協力を得ながら着実に成果を積み上げています。

▼取組のイメージ



(2) 取組の実績

- ◇ 対象高齢者は近年減少傾向にあり、特に登録数の多い地区での減少が目立ちます。
- ◇ ふれあい見守り推進員は近年大きな減少が続いていましたが、この傾向が鈍化し、一部には増加している地区も見られます。
- ◇ 協力事業所は、事業所が多く立地する地区を中心に登録数が増え続けています。

▼対象高齢者の登録状況

	もぐさ	あさかわ	すてっぴ	あいりん	せせらぎ	多摩川苑	いきいき タウン	すすらん	かわきた	合計
H25	10人	35人	8人	36人	17人	19人	2人	18人	5人	150人
H26	10人	29人	9人	28人	22人	17人	3人	13人	4人	135人
H27	10人	22人	9人	22人	19人	10人	4人	12人	3人	111人
増 減	+2人 -2人	+1人 -8人	+2人 -2人	+4人 -10人	+2人 -5人	+1人 -8人	+2人 -1人	+1人 -2人	+0人 -1人	+15人 -39人

▼ふれあい見守り推進員の登録状況



地域にお住まいの協力者の方々です。地域包括支援センターからの依頼を受けて、高齢者宅の訪問や、挨拶などの声かけを無理のない範囲で行っています。

	もぐさ	あさかわ	すてっぴ	あいりん	せせらぎ	多摩川苑	いきいき タウン	すすらん	かわきた	合計
H25	18人	30人	25人	45人	21人	39人	7人	12人	15人	212人
H26	17人	27人	26人	33人	24人	40人	9人	13人	14人	203人
H27	18人	24人	26人	30人	26人	35人	9人	12人	12人	192人
増 減	+1人 -0人	+0人 -3人	+0人 -0人	+5人 -8人	+2人 -0人	+0人 -5人	+0人 -0人	+0人 -1人	+0人 -2人	+8人 -19人

▼協力事業所の登録状況



商店、事務所、医療機関等の中で協力意向をいただいた事業所の方々です。業務を通じて地域の高齢者と日常的に接する機会が多く、その問題や異変を早期に発見して、地域包括支援センターに連絡します。

	もぐさ	あさかわ	すてっぴ	あいりん	せせらぎ	多摩川苑	いきいき タウン	すすらん	かわきた	市外	合計
H25	27所	52所	69所	107所	35所	21所	10所	21所	23所	2所	367所
H26	26所	60所	70所	112所	36所	21所	10所	24所	23所	5所	387所
H27	26所	65所	70所	111所	37所	33所	12所	26所	23所	7所	410所
増 減	+0所 -0所	+12所 -7所	+4所 -4所	+1所 -2所	+1所 -0所	+12所 -0所	+2所 -0所	+2所 -0所	+0所 -0所	+2所 -0所	+36所 -13所

▼その他の機関との連携状況

日野警察署、日野消防署、日野郵便局、日野市ごみゼロ推進課（(株)日野環境保全）の4機関にも事業開始当初から協力をいただいています。



「巡回中の見守り」
など



「防火診断のための
家庭訪問」など



「郵便配達時の
ポストの確認」など



「ごみ出し確認」「希望者
への声かけ収集」など

1-2-3 ふれあいサロン

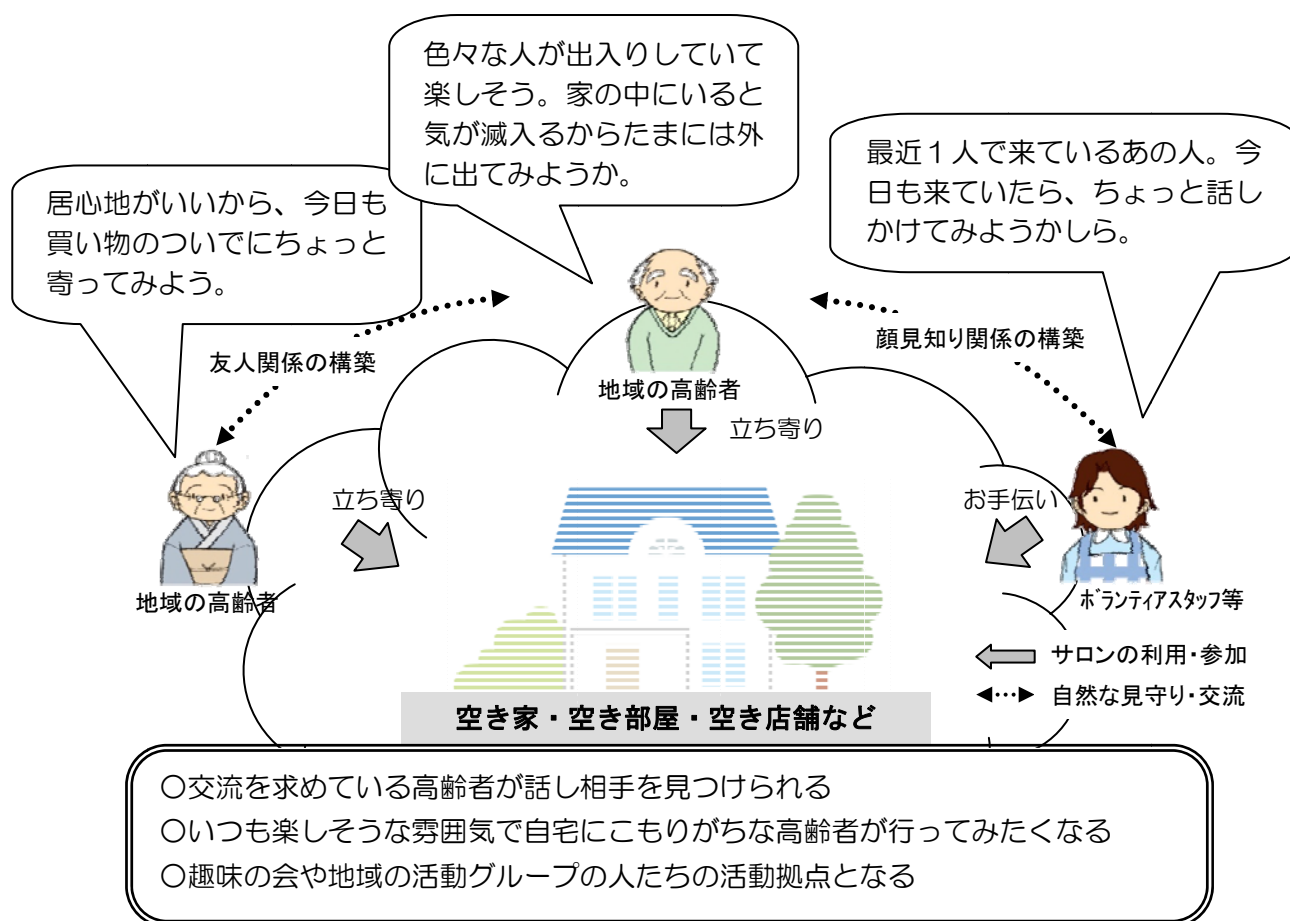
(1) 取組の概要

「見守り・声かけ」の活動を展開する中で、「登録を拒否する方や自宅に引きこもりがちの方への対応が課題」「地域の高齢者が集まれるような場所をつくってはどうか」といった声が出てきました。

「ふれあい交流型」の取り組みは、このような声に応えるべく、いつでも気軽に立ち寄れる「地域のたまり場」となるような場所をつくって、高齢者を含めた地域の多様な人が集まって交流する中で「自然に見守りができている」状態をつくりあげることを目指しています。

平成19年度から、交流の拠点となるような“場所”とその運営を担う“人”の両面から立ち上げの支援を開始し、平成20年4月に第1号の「百草団地ふれあいサロン」が正式オープンを迎えました。平成21年度からは、「日野市高齢者見守り支援ネットワークふれあい交流型実施要綱」にもとづき、高齢者とのふれあいをテーマにした既存の活動についても補助金の交付などの支援を行っています。

▼取組のイメージ



(2) 取組の実績

- ◇ 平成 26 年度から引き続き、6 つのふれあいサロンが活動を行っています。
- ◇ 平成 27 年度の後半から平山地区で検討が始まり、個人宅の一部を開放した新しい形のサロンの開設が具体化してきました。
- ◇ 百草団地ふれあいサロンでは年間来訪者が 1 万人を突破した一方、来訪者が前年度から減少したサロンも見られます。

▼ふれあい交流拠点

- ◇ 週 4 日以上オープンなど高齢者の集まりやすさに対する配慮を求める。主に新規に高齢者の居場所づくりに取り組む場合を想定。

	①百草団地ふれあいサロン (平成 20 年 4 月開設)	②よりみちさくら (平成 21 年 6 月開設)	③南平ふれあいサロン (平成 13 年 11 月開設) (平成 23 年 7 月にリニューアル)
場所	百草 999 百草団地 281 号棟 116 番	多摩平 2-6-1 多摩平の森さくら集会所内	南平 7-16-14
体制	活動頻度：週 4～5 日 常駐スタッフ人数：2 人～	活動頻度：週 4 日 常駐スタッフ人数：2 人～	活動頻度：週 4 日 常駐スタッフ人数：2 人
実績	オープン日：256 日 来訪者：のべ 10,008 人	オープン日：124 日 来訪者：のべ 3,200 人 (各種イベントを除く)	オープン日：187 日 来訪者：のべ 3,305 人
			

▼ふれあい交流活動

- ◇ ふれあい交流拠点の基準には満たないが、自主的な運営により高齢者の交流の場として機能しているような既存の活動を想定。

	④談話室ひなたぼっこ (平成 19 年 4 月移転)	⑤南新井ふれあいサロン (平成 22 年 7 月開設)	⑥お話サロン (平成 24 年 1 月開設) (平成 25 年度より助成開始)
場所	大坂上 4-20-18 1 階	新井 650-2	東平山 1-7-9 平山住宅 9 号等 1 階
体制	活動頻度：週 4 日 常駐スタッフ人数：2 人～	活動頻度：週 3 日 常駐スタッフ人数：2 人～	活動頻度：週 1 日 常駐スタッフ人数：7 人
実績	オープン日：174 日 来訪者：のべ 1,644 人 (スタッフを含む)	オープン日：142 日 来訪者：のべ 2,026 人	オープン日：46 日 来訪者：のべ 1,018 人
			

▼ふれあいサロンスタッフ交流会

開設予定のサロンを含む全7団体（9-10頁まで参照）の関係者が集まって、各サロンのスタッフの交流と活動内容に関する情報交換や悩みの共有等を目的とする交流会を開催しました。過去3回は何れかのサロンを会場にお借りしていましたが、今回のスタッフ交流会は、時間帯や交通の便を考慮して多摩平の森ふれあい館で開催し、開催内容、方法ともに参加した方々から好評を得ることができました。

開催日時	3月22日（火）14：00-16：00	
開催場所	多摩平の森ふれあい館 集会室6	
参加者	<u><サロン関係者></u> 6つのサロンのスタッフ、開設予定のサロンの関係者 計 24 名 <u><その他></u> 日野市社会福祉協議会、日野市高齢福祉課、委託事業者	
プログラム	1. 感謝状の贈呈 2. 情報提供 ・見守り支援ネットワークシンポジウムの紹介 ・シンポジウム出席者には「旅のことば（認知症とともにによりよく生きるためのヒント）」をご紹介 3. 交流タイム「サロン史を書いてみましょう」 ・サロン史の記入 ・テーブル毎に情報交換 ①まずは、順番に自己紹介とサロン史の紹介 ②次に、他の方のサロン史で気になることなどを自由に話し合い ・全体発表（最後にテーブル毎に話した内容を発表して情報共有）	

▼当日の様子



会の冒頭で各サロンに感謝状を贈呈
（見守り支援ネットワーク 10 周年関連）



映像を使ってシンポジウムの様子をご紹介



情報交換では同じスタッフ同士話が弾みます



全体発表では共通の悩みが多いことも分かりました

全体発表A

「今度新しくサロンを開設する予定です。」
「色々な話を聞かせてもらいたくさんの収穫がありましたが、毎月スタッフ会議を行っている、サロンと老人会と自治会の3団体が協力して運営にあたっているという話が特に印象に残りました。」
「共通して感じたのは、どのサロンも皆さんとても前向きに活動されているということ。大変参考になりました。」

全体発表B

「地域の方に足を運んでいただき、気持ちよく楽しく時間を過ごしていただくためにどうしていますか?という話が出ました。」
「“やっぱりロコミ” “チラシをたくさんつくってポスティングしている”という方、様子を見に来たご家族や初めての方等にも“近くの方を誘って来てください”と声をかけているという方もいました。」
「それから、お誘いをしたらそれをちゃんと次につなげていかないと広がっていかないの、来ていただいた方には“楽しかった”と言ってもらえるように心配りとアンテナを張りながらやっていますという話がありました。」

全体発表C

「スタッフが中々集まらない、来ていただく方が少ない時にどうするか情報交換をする中で、ご近所に声をかけて、ある通りが“スタッフ通り”と呼ばれるくらい仲間を増やしたという話を聞きました。団地のサロンでは、新しく越して来た方には必ずチラシを渡して利用者になってもらうようお誘いしているそうです。」
「男性専科の料理教室をやっているところや、サロンに来た方が具合が悪くなった時に連絡先が分からないと困るので、利用者の方々に連絡先を持ってきてもらうようにしたところもあるようです。」
「“知り合いが増えた” “色々な方と出会えて教えてもらうことも増えた”という良かったことがある一方、“人間関係で悩むこともある”という話もありました。」

全体発表D

「一番気になったのは、利用者やスタッフの高齢化が進んでいるということです。」
「私達のサロンでも来てくれる方が固定化する傾向があるの、新しい利用者をどうやって呼び込むかが大きな課題だなと感じています。大学が近くにあるサロンは大学生の協力もあるようなので、地域の方や、こうした若い方々の協力も不可欠かなと感じました。」
「また、他のサロンでは初期の認知症の方にも苦慮しながら対応されているという話を聞きました。私達には無理だと思っていましたが、“認知症だから” “もう歩けない人だから”と諦めてしまうべきではないかもと考えさせられました。」

全体発表E

「自治会と連携して土曜日にグランドゴルフをやっている、外の会場を借りて映画会をやっている、というような色々な活発な活動状況を聞くことができました。」
「共通の悩みは、やはり若い人がいない、後継者がいないということです。どこのふれあいサロンも楽しく活動しているのですが、新しい人を入れていかないと年々運営が難しくなっていきます。先ほども話があったように、地域の人に声かけをして新しい息吹をもたらす必要があると思います。」
「実践大学や帝京大学、明星大学等の学生が来てくれているサロンがいくつかありましたが、高齢者の方からは“大学生が来ると緊張して疲れる”という声もあるので、大学生との付き合い方についてまだ皆さんで話ができればと思います。」

1-2-4 ちょっと困りごとサービス

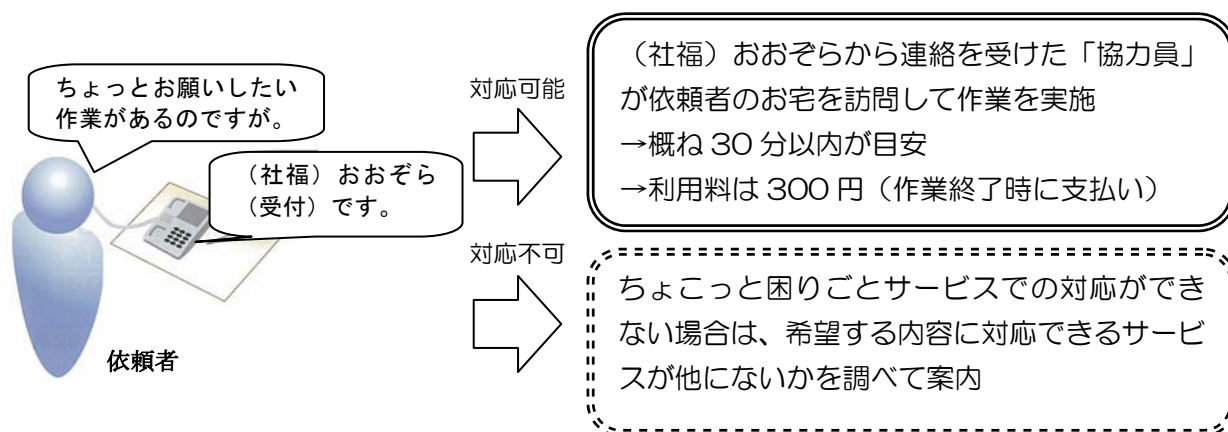
(1) 取組の概要

見守り支援ネットワークの検討当初より必要性が指摘されてきた、ひとり暮らし高齢者等の日常生活の「ちょっとした困りごと」をお手伝するべく、平成20年度からスタートした取組です。

対象者からの作業依頼の連絡を受けて、事業に登録するボランティア（「協力員」）の方が活動を行っています（「協力員」の登録がない地域から作業依頼があった場合など一部の依頼は受付窓口である「（社福）おおぞら」の職員が対応しています）。

作業を行う際には、訪問先の高齢者の様子について気にかけてもらうようにしています。

▼取組の基本的な流れ



▼サービスを活用する場合のルール

- ・対象者 : 概ね 70 歳以上のひとり暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯、障害者のみの世帯
- ・作業内容 : 専門技術を必要としない概ね 30 分以内で終了する継続性のない作業
(電球の交換、ブレーカー落ちの修復など)
- ・利用料 : 1 回 300 円 (作業に係わる実費については別途利用者が負担する)
- ・利用方法 : (社福) おおぞらに直接電話で申込
- ・受付時間 : 土日祝日年末年始を除く午前 9 時～午後 5 時

※受付窓口は、平成 26 年度より日野市福祉事業団から（社福）おおぞら に変更となっています。

(2) 取組の実績

- ◇ 平成27年度は、新たに1人の登録があったため8人体制で活動していましたが、年度末に1人辞められたため、最終的には前年度と同様7人の方が協力員として登録しています。
- ◇ 依頼件数は大きく実績を伸ばした前年度から僅かに減少していますが、200件超となっています。
- ◇ 依頼の電話とは別に集計している問合せ件数が増加しています。

▼協力員の登録状況

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
協力員 総数	7人	10人	13人	11人	12人	12人	7人	7人
増減	—	+4人 -1人	+3人 -0人	+1人 -3人	+1人 -0人	+0人 -0人	+1人 -6人	+1人 -1人

▼活動実績

- ◇ 毎月平均して約17件の依頼の電話が寄せられ、そのうち約12件をちょっと困りごとサービスで対応しています。

年度	依頼件数					その他の 電話対応
	総数	作業実績	業者紹介	対応不可	依頼取消	事業内容 の確認等
平成27年度	203件	139件	34件	15件	15件	18件
【参考】平成26年度	224件	150件	32件	22件	15件	5件

作業内容は多い順に、

- ・ 照明器具等の購入・交換：59件
- ・ 家電、建具等の点検・修理：46件
- ・ 重量物の移動（小型家具・粗大ゴミ等）：23件
- ・ 電気機器等の操作・説明：7件 ほか

- ◇ 「専門技術を必要としない」「30分以内」「継続性がない」という条件に当てはまらずにお断りしたもの（上記「対応不可」に該当）については、以下のような対応をとっています。

依頼内容	対応
例) 草取り・庭の手入れ、部屋の片付け	シルバー人材センターを紹介
例) 不用品の処分	リサイクルセンターを紹介
例) 電気工事や家電の修理、水道工事	専門性をともなうため他の業者を紹介

1-3 個別の取組の成果と課題

1-2-1から1-2-4の取組毎に今年度の成果と課題を以下の通り整理しました。全体に共通する内容については、冒頭に取りだして整理しています。

▼見守り支援ネットワーク全体の成果と課題

成果	・見守り支援ネットワークの立ち上げから 10 年を迎えることができました。 ・現在も（ネットワーク全体では）協力者の輪を拡大しながら、高齢者が安心して暮らせるまちを目指す様々な見守り支援活動が行われています。 ・1 月には 10 周年を記念するシンポジウムを開催し、参加した方々から好評を得ることができました。
課題	・立ち上げから時間が経過したことで、協力者の中からも自身の高齢化や次世代の育成について不安の声があがるようになってきています。 ・ネットワークを中心的に運営する地域包括支援センターからは、今後 10 年の方向性が見えないという指摘がなされています。 ・事業を効率的に推進していくため、関係事業や機関との連携を目標としていましたが、当初の計画通りに進められていません。
対応案	・今後 10 年の方向性を形にするため、モデル地区を設定して実践的な検討を行います。“地域”を単位にしたネットワークの統合（融合）が 1 つの目標として考えられます。 ・関係事業、機関との連携に向けて、以下のような類似する事業についてこれを所管する関係機関との調整を行うことが考えられます。 －見守り支援と各種の認知症施策、避難行動要支援者対策 －ふれあいサロンとミニミニふれあいの集い、介護予防・日常生活支援総合事業 －ちょこっと困りごとサービスとシルバー人材センター －一気かけ運動と老人クラブ活動、地域懇談会等の地域づくり など

▼ふれあい訪問調査（はつらつ・あんしん調査）の成果と課題

成果	・65 歳以上 13,996 人、うち 75 歳以上 6,492 人という大勢の方から回答を得ることができました。 ・特に 75 歳以上の方については約 9 割という高い回収率となっており、市内の高齢者の生活実態を把握する上で有効な方法となっています。
課題	・平成 25 年度に調査方法を郵送配布・郵送回収方式に変更したことについて、今年度も民生委員や地域包括支援センターから「訪問が不要となり高齢者の様子が把握しづらくなった」「情報が入って来づらくなった」という声があがっています。 ・現在の調査項目について、「見守り希望に関する質問が分かりづらい（説明不足でうまく回答してもらえていない）」という指摘があります。 ・地域包括支援センターからは、その他にも調査の内容や実施方法に関する以下のような改善のアイデアが寄せられています。 －もっと多くの情報の把握に活用する（緊急連絡先だけでなく他にも質問を増やす） －調査に疑問を持つ対象者へ有用性・必要性を示す（結果を返す等の対応を） －集めた情報をもっと多方面に活用する（実態把握の基礎情報なので）
対応案	・調査方法については、民生委員さんの訪問にかかる負担を軽減することを目的に民生委員さん自身のご意見なども確認しながら変更した経緯があるため、現在の方式を継続することを基本とします。 ・調査項目の追加や集めた情報の活用、調査対象者への結果のリターンや対面で高齢者の様子を把握する取組など調査の改善策については、民生委員さんの負担が大きく増加することがないように留意しながら引き続き検討していきます。

▼「見守り・声かけ」の成果と課題

成果	・約 200 人の推進員さんが 100 人超の対象高齢者のご近所の様子を見守る大きなネットワークが動いており、問題をいち早く発見して対応できた、実際に詐欺被害を未然に防ぐことができたといった成果が報告されています。 ・協力事業所は今年度も大きく登録数を増やしています。 ・「思い出集（3-2-3 参照）」作成のためふれあい見守り推進員の方々の思い出等を募集したところ、優れた活動や対象高齢者との良好な関係があることを改めて確認することができました。
課題	・新規の登録がある一方、これを上回る数の登録廃止があり、対象高齢者、ふれあい見守り推進員は全体で登録数が減少しています。 ・地域包括支援センターの相談員からは、連絡会や検討部会（第 3 章を参照のこと）の中で活性化の必要性について以下のような指摘がなされています。 －高齢化や転居等で推進員さんの人員が不足している －取組の中身があまり知られていない（それ故に希望者や担い手も出てこない） －協力事業所についても登録をただで役割を忘れているところも多い ・また、前年度も課題となっていましたが、事業開始当初から時間が経過したことで地域毎の進め方にギャップが生じていることについて、包括圏域をまたいだ情報交換や関係者のモチベーションを向上する取組の必要性が指摘されています。
対応案	・後継者問題への対応とネットワークの次の 10 年の形を検討する材料として、10 年間の活動（例えば“こんな見守り方があった”等）のアーカイブを作成することが考えられます。 ・今年度を実施したシンポジウム（第 3 章を参照のこと）のようなイベントを継続的に開催して、見守り支援ネットワークの PR や担い手の掘り起こしにつながるような機会を設けることが考えられます。 ・こうしたイベントはアーカイブの活用や包括圏域をまたいだ情報交換、関係者のモチベーション向上の機会として期待されますが、このような全市単位の取組とあわせて、地区連絡会あるいは更に小さな単位も含め同様な取組を多層的に展開していくことが重要です。

▼ふれあいサロンの成果と課題

成果	・新しいサロンの開設がしばらくありませんでしたが、平成 27 年度の後半から平山地区で検討が始まり、個人宅の一部を開放した新しい形のサロンの開設が具体化してきました。 ・個人宅を利用したサロンは、身近に地区センター等の適当な場所がないためサロンの開設を諦めている方々の突破口になることが期待されます。 ・3 回目の開催となったサロンスタッフの交流会では、実際の取組に関する情報交換や悩み事の共有などが行われており、参加者からも好評を得ています。
課題	・百草団地ふれあいサロンでは年間来訪者が 1 万人を突破した一方、来訪者が前年度から減少したサロンも見られます。 ・交流会の中では、現在のサロン活動が少し停滞していると話す方もいました。また、ほぼ全てのサロンに共通して「後継者がいない」という指摘がありました。 ・これまで右肩上がりの状況が続いていましたが、長く活動が続ける中で調子を崩しているサロンがあること、来訪者だけでなくスタッフも歳をとっている状況があることが分かりました。
対応案	・来訪者を集めるために、例えば“はつらつ・あんしん調査にサロンの PR 資料を同封する”など、新たな支援を実施することが考えられます。 ・各サロンの悩みの解決に向けては、交流会を継続して開催するとともに、特に困っているサロンに対しては個別にフォローを実施することが考えられます。 ・特に市内初となる自宅開放型のサロンについては、予想外のトラブルが発生する可能性もありますが、第一に地域の方々の主体的な取組であること、第二に後へ続く地域のためにもなる取組であることを念頭に、必要なサポートを適宜実施していきます。 ・新たなサロンの開設促進と後継者問題の解決に向けて、サロン活動に関心を持っている人と既にサロン活動を実施している人が交流する場を設けることも検討します。

▼ちょこっと困りごとサービスの成果と課題

成果	・問合せ件数が増加しており、事業に対する関心が高まっていることが推測されます。 ・依頼件数は、大きく実績を伸ばした前年度からは僅かに減少していますが、200 件超を維持しており、問合せ件数を加えるとサービスへの接触件数は概ね横ばいと言える状況です。 ・近年は協力員の減少が続いていましたが、今年度は前年度の体制を維持することができました。
課題	・協力員の減少は止まりましたが、まだ最盛期の約半分の人数であり、今後事業を大きく PR してより多くの依頼に対応するには心許ない状況です。 ・他の業者を紹介するケースや依頼が取り下げられたケース、問合せがあったものの情報提供のみに留まっているケースなど、依頼者の期待に全て応えられているとは言えない状況があります。 ・また、実際に実施している内容はお隣等にお願ひできそうなものが多く、実施内容が限られていることが依頼取り下げ等の 1 つの要因となっていることが想像されます。
対応案	・事業の拡大を図っていくためには、協力員の増員と実施内容の拡大により体制の充実を図った上で、市民・利用者への PR を行うという進め方が良いと思われます。 ・協力員を増員するためには、社会福祉協議会が発行する「ボランティア・インフォメーション」に募集記事を掲載することが考えられます。 ・実施内容の拡大については、「これができる方募集」といった形で、作業を負担に感じない方、特技を持った方を集めてしまうという方法も考えられます。

第2章「気にかけ運動の展開」

2-1 気にかけ運動の概要

見守り支援ネットワークでは、対象高齢者とふれあい見守り推進員をマッチングした1対1の見守り・声かけを中心に活動を広げてきました。しかし、事業開始から数年が経過し、「登録を拒否するが心配な高齢者がいる」「他にも目が行き届いていない高齢者がいる」といった課題が明らかになってきました。そこで、見守る相手を特定せずに広く身の回りを対象とする“気にかけ”を登録を要せず誰でも気軽に参加できる“運動”として始めようというのが「気にかけ運動」の出発点です。

この「気にかけ運動」は、見守る側―見守られる側の立場を超えて、地域の中でお互いに“気にかける”向こう三軒両隣の関係を再構築することを目指しています。日頃からお互いに気にかかけあっていれば、相手の様子の変化に気付いてあげられるだけでなく、日常のちょっとした困り事や災害時に助け合える関係にもつながります。また、心配な方を適切なタイミングで支援につなぎ、悲しい事件を未然に防ぐ特効薬となることも期待されます。

普段の挨拶やちょっとした機会に声をかける、そんなことから「誰もが安心していきいきと暮らせるまちづくり」始めてみませんか？

▼現在の取り組み内容

- ◇ 向こう三軒両隣の関係の再構築に向けたステップを以下の通り設定し、「“気にかけ”運動 地域展開の手引き」（次頁参照）を用いて各地域に周知を図っています。

① 見ざる 言わざる 聞かざる からの脱却

まずは、周りの方を緩やかに“気にかけ”て、深刻な状況になる前に適切なサービスにつなげることで、そのために高齢者等のちょっとした異変を発見して、速やかに地域包括支援センターに連絡が入る体制を目指しましょう。

② 一歩踏み込んだ地域づくり

これだけでは足りない／もっとできそうと思ったら、上記からさらに一歩踏み込んだ活動を展開している地域の事例を参考に、どんなことができそうか地域の中で話し合ってみましょう。

例) 地域の中で“気になる”方を見守る仕組みをつくる

例) 高齢者が集まる地域の拠点（サロン）をつくる

例) 地域の中で困っている方を支える仕組みをつくる

③ “向こう三軒両隣”のお付き合いへ

日頃からお互いに気にかかけあっていれば、相手の様子の変化に気付いてあげられるだけでなく、日常のちょっとした困り事や災害時に助け合える関係にもつながります。また、心配な方を適切なタイミングで支援につなぎ、孤立死のような悲しい事件を未然に防ぐ特効薬となることも期待されます。目指しているのは、このような“向こう三軒両隣”の再構築です。

2-2 地域展開の実施状況

平成24年度から地域包括支援センターのネットワークの中からモデル地区1つを選んで「気かけ運動」の地域展開（勉強会の開催）の試行を開始し、翌平成25年度以降は、民生委員やふれあい見守り推進員の持つ情報や人脈を通じて地域の各種団体を訪問して情報提供等を実施してきました。

平成27年度は、出張説明と相談窓口の設置という2つのルートで地域への働きかけを行うこととしました。この取組の実績は以下の通りですが、この他にも電話にて簡単な説明を行ったもの、資料の提供を行ったものなどが存在します。

▼取組の内容

取組項目	内容	開催実績
1. 出張説明	・地域からの要望を受けて、「気かけ運動」に関する情報提供を実施	<u>＜自治会＞</u> ・多摩平三丁目自治会 ・西宮下自治会 <u>＜その他の団体＞</u> ・くらしの輪連絡会 ・シルバー人材センター新町地区
	・見守り支援ネットワークの既存の協力者に対して、各地区の連絡会等の機会を通じて「気かけ運動」に関する情報提供を実施	・よりみちさくら（ふれあいサロン）スタッフ会議 ・すすらん地区連絡会 ・あいりん地区連絡会
2. 相談窓口の設置	・毎月15日（15日が土・日・祝日にあたる場合は翌平日に振替）を“相談日”と定めて、市役所にて気かけ運動に関する質問や相談を自由に行うことが出来る体制を用意	・相談：0件

2-2-1 出張説明

(1) 取組の概要

高齢福祉課または地域包括支援センターに寄せられた地域からの要望を受けて、または既存の協力者の中での関心の高まりを受けて、各地域に出張して「気かけ運動」に関する情報提供を行いました。

地域の高齢化に対して漠然とした問題意識を抱えている、具体的に何かやってみたい／やらなければいけないと考えている、見守り支援等の輪を広げていきたいと考えているなど、それぞれの地域で体制や状況が異なることから、「見守り支援ネットワーク全般に関する情報提供も行う」「具体的な活動事例の紹介を丁寧に行う」「地域の問題点や活動団体を共有するグループワークを行う」というようにそれぞれ説明内容を変えて対応しました。

(2) 取組の実績（内容別に時系列で掲載）

▼くらしの輪連絡会

開催日時	6月17日（水）10：30～12：00
開催場所	生活・保健センター 2F
参加者	<u><地域住民></u> くらしの輪連絡会（市内の9消費者団体の連絡会議） 計11名 <u><その他></u> 包括いきいきタウン、地域協働課、高齢福祉課、委託事業者 計6名
プログラム	1. 情報提供 ①地域包括支援センターおよび見守り支援ネットワークに関する紹介 ②気かけ運動に関する紹介 ・はじめに ・見守り支援ネットワークの取組内容 ・新たな取組“気かけ”運動 ・気かけ運動相談日の紹介 など 2. 質疑応答・意見交換

▼多摩平三丁目自治会

開催日時	6月21日（土）10：00～11：00
開催場所	多摩平三丁目地区センター
参加者	<u><地域住民></u> 多摩平三丁目自治会員 計14名（子どもを除く） <u><その他></u> 包括あいりん、高齢福祉課、委託事業者 計4名
プログラム	1. 包括あいりんより地域の状況に関する情報提供 2. 高齢福祉課より気かけ運動に関する情報提供 ①気かけ運動の背景と狙い Q.お住いの地域の高齢化の状況は？ など ②皆さまにお願いしたいこと ・一歩踏み込んだ地域づくりの例 A～C ・気かけ運動の進め方（案） など 3. 質疑応答

▼西宮下自治会

開催日時	6月24日（水）10：00～12：00
開催場所	川北地区センター
参加者	<u><地域住民></u> 西宮下自治会 計20名 <u><その他></u> 包括かわきた、包括いきいきタウン、高齢福祉課、委託事業者 計5名
プログラム	1. 開会 ・主催（自治会福祉部長）による情報提供 など 2. いきいきと健康に暮らすために【講義】 ①包括かわきた 菅原所長による講義 ・いきいきと健康に暮らす秘訣について ほか ②包括いきいきタウン 川田所長による講義 ・はつらつ・あんしんチェックシート、健康体操の紹介 ほか ③梵まちづくり研究所 熊井による講義 ・気かけ運動の狙い ・皆さまにお願いしたいこと ・一歩踏み込んだ地域づくりの例 ほか 3. 質疑応答・地域の課題等の検討【ミニ・ワークショップ】 ・講義の内容や高齢者福祉に関する質疑応答 ・付箋を用いて「現在の不安や地域の課題」と「課題に対する取組の案」を共有

▼シルバー人材センター新町地区

開催日時	12月13日（日）10：00～12：00
開催場所	新町交流センター 2F和室
参加者	<u><地域住民></u> シルバー人材センター新町地区所属会員 約40名 <u><その他></u> 高齢福祉課、委託事業者 計3名
プログラム	※定期会後の一部の時間をお借りして以下の説明を実施 1. 情報提供 ①地域包括支援センターおよび見守り支援ネットワークに関する紹介 ②気かけ運動に関する紹介 ・はじめに ・見守り支援ネットワークの取組内容 ・新たな取組“気かけ”運動 ・気かけ運動相談日の紹介 など 2. 質疑応答

▼説明内容（抜粋）

平成17年度～「見守り・声かけのネットワーク」

- 市内4地区を対象にしたモデル事業～平成19年度の全展開完了～現在まで続く「見守り支援ネットワーク」の基本型
- 昨年度末現在、「対象高齢者」153人
「ふれあい見守り推進員」203人
「協力事業所」387所 が登録中です
- 開始以来、警察、消防、郵便局、ゴミゼロ推進課も協力



「さりげない見守り」を合言葉に週に1回程度の「見守り」を実施



「お互いが心地よい関係づくり」を合言葉に月に1回程度の「声かけ」を実施

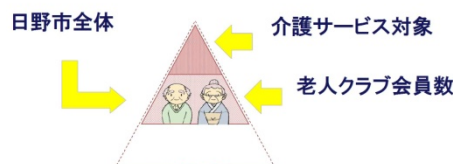
2015年12月13日 気にかかけ運動説明資料シルバー人材センター新町地区 6

見守り支援ネットワークの既存の取組についてご紹介

気にかかけ運動の背景 1/3

□日野市の高齢化の状況は？

- 市内の65歳以上の人口は約____人(平成27年1月1日現在)
- このうち介護保険サービスを受けている方は約____人
- 地域の支え合いの1つ 老人クラブの会員数は約____人



2015年12月13日 気にかかけ運動説明資料シルバー人材センター新町地区 16

クイズ形式で日野市の高齢化の状況や地域での取組の必要性についてご説明

皆さまにお願いしたいこと ～ステップ①

これだけはお願いしたい3つのポイント

□“あれっ”と思った時の連絡ルートを決める

- 地域包括支援センターを覚えておく
- 【自治会の例】近所で気になることがあったら「班長」は「執行部」に→「執行部」は地域包括支援センターに連絡

□“気にかかけ”のポイントを周知する

- チラシの内容を多くの人に意識伝える

□ご近所の顔と名前を把握する

- 名簿や地図を作成する
- 住民が顔をあわせる機会を設けて見知った相手を増やす(地域のつながりを広げる)

2015年12月13日 気にかかけ運動説明資料シルバー人材センター新町地区 22

ステップ①として、これだけはお願いしたい3つのポイントをご説明

一歩踏み込んだ地域づくりの例A

□地域の中で気になる方を見守る仕組みをつくる N自治会「高齢者見守り推進委員」

- 自治会でアンケートを実施して、地域住民による“見守り”を希望する方を抽出
- うち75歳以上の独居または高齢世帯20軒を「見守り対象先」に選定し、有志メンバー「高齢者見守り推進委員」4人が週に1回、「外から目視」を原則に見守りを実施

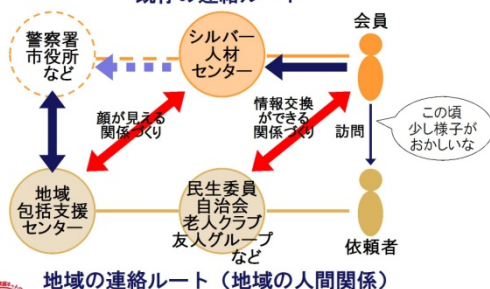


2015年12月13日 気にかかけ運動説明資料シルバー人材センター新町地区 28

ステップ②として「一歩進んだ地域づくりの例」をご紹介

連絡ルートのイメージ

既存の連絡ルート



2015年12月13日 気にかかけ運動説明資料シルバー人材センター新町地区 25

具体的な取組の内容についてご提案することも

周りの方へのPR「気にかかけ運動相談日」の開催をお願いします

- 「気にかかけ運動って何？どんなことをすればいいの？」「独自に活動を始めたけれどもうまくいかない」という方々を後押しするため、今年度は月に1回の相談日を開催中

- と き : 毎月15日 10:00-17:00
(15日が土・日・祝日にあたる日は翌平日に振り替え)
- と ころ : 日野市役所高齢福祉課窓口までおこしく下さい
(食堂・喫茶室などのスペースを利用する予定です)
- 備 考 : 見守り支援ネットワーク全体や気にかかけ運動の立ち上げを手伝う外部のアドバイザーが常駐して、皆さまからのご相談に対応します
: “気にかかけ”運動の概要説明や悩み事の相談のほか、地域の高齢化の状況に関する情報提供や作業用の地図のプレゼントなども実施
: この他、リクエストがあった地域への出張相談や勉強会の開催等も実施中

気軽にお越しください

2015年12月13日 気にかかけ運動説明資料シルバー人材センター新町地区 32

最後に、追加の質問・相談に対応するため「相談日」についてご紹介

▼よりみちさくらスタッフ会議

開催日時	7月27日（月）9：30～11：30
開催場所	多摩平の森 さくら集会所
参加者	<u><地域住民></u> よりみちさくらスタッフ 約15名 <u><その他></u> 包括すてっぷ、包括あいりん、高齢福祉課、委託事業者 計8名
プログラム	※スタッフ会議の一部の時間をお借りして以下の説明を実施 1. 多摩平の森の高齢化の状況【情報提供】 2. 気かけ運動の背景と狙い【情報提供】 3. 皆さまにお願いしたいこと【情報提供】 ・これだけはお願いしたい3つのポイント ・一歩踏み込んだ地域づくりの例 ・気かけ運動相談日の紹介 など 4. 地域の課題等の検討【ミニ・ワークショップ】 ・付箋を用いて「現在の不安や地域の課題」と「課題に対する取組の案」について意見交換

▼包括すすらん地区連絡会

開催日時	9月9日（水）10：00～12：00
開催場所	南平西部地区センター
参加者	<u><地域住民></u> すすらん地区に所属する民生委員、ふれあい見守り推進員 計8名 <u><その他></u> 包括すすらん、高齢福祉課、委託事業者 計6名
プログラム	※地区連絡会の一部の時間をお借りして以下の説明を実施 1. 気かけ運動の背景と狙い【情報提供】 2. 皆さまにお願いしたいこと【情報提供】 ・これだけはお願いしたい3つのポイント ・一歩踏み込んだ地域づくりの例 ほか 3. 小地区毎の情報交換【ミニ・ワークショップ】 ・すすらん地域の現状を説明 ・その後、地区の地図と付箋を使って「地域の困り事や心配事」「気かけの縦となる元気な人やグループ」「できたらいいなと思う対策」について情報交換 4. 気かけ運動の地域展開に向けて【情報提供】 ・気かけ運動相談日の紹介 など

▼包括あいりん地区連絡会

開催日時	10月27日（火）14：00～16：00
開催場所	イオンホールB
参加者	<u><地域住民></u> あいりん地区に所属する民生委員、ふれあい見守り推進員 計26名 <u><その他></u> 包括あいりん、高齢福祉課、委託事業者 計8名
プログラム	※地区連絡会の一部の時間をお借りして以下の説明を実施 （包括すすらん地区連絡会と同様のため省略）

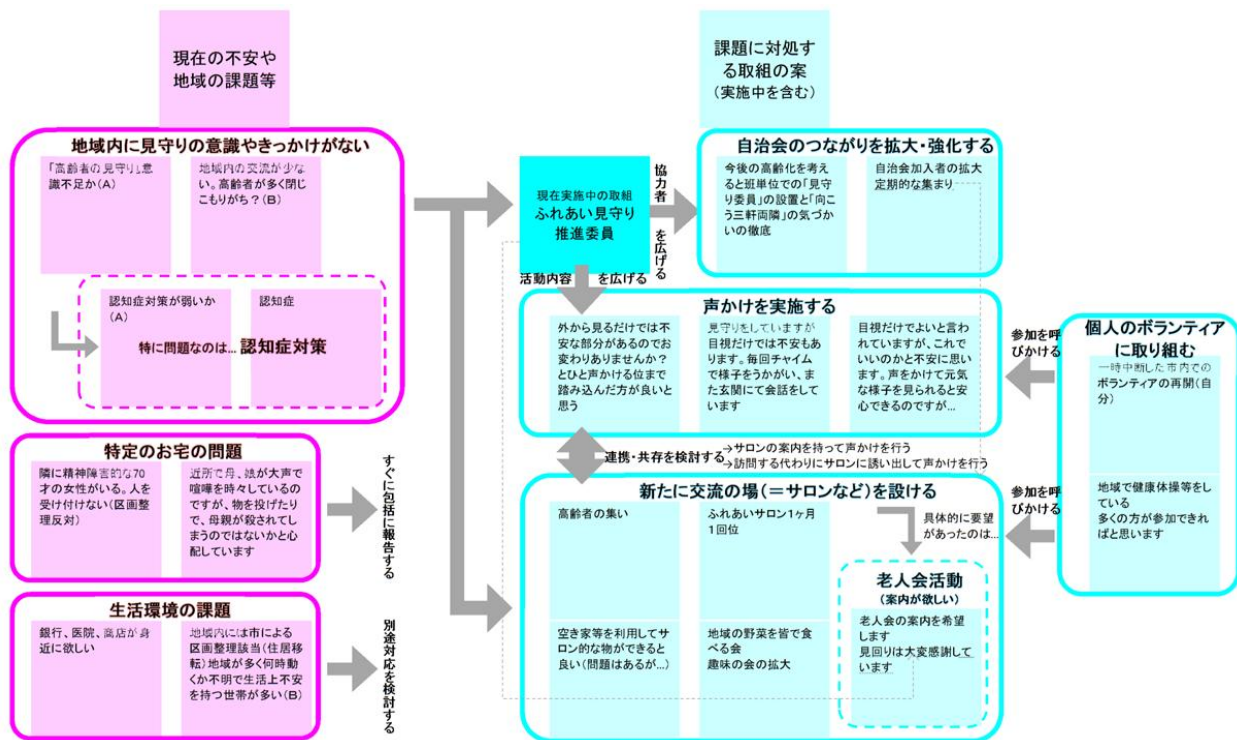
▼ミニ・ワークショップの様子



白地図を広げたテーブルを囲んで準備完了



白熱する情報交換



	地域の困り事や心配事	ご近所の元気な人やグループ	できたらいいと思う対策
大坂上	○1人でお住まいの方が多 ○子どもが独立して老夫婦2人の世帯が多い ○1丁目(?)：体を壊しあいりんさんにお世話になって入院(A氏)	○都営：雪かき隊、のど自慢大会 ○都営・大坂上1・大坂上2の3自治会：もちつき ○都営自治会の会長Y氏が楽しく積極的 ○大坂上中学校：あいさつ運動、おやじの会、坂中ウォーク、ふれあい祭 ○七小・坂中・日野台・実践の4校：音楽祭 ○西公園の植木(垣根)を低くしたため外より見えやすい	○映画上映会実施(市民会館に於いて／某新聞社主催) ○町内バス旅行実施
日野台	○お店をやっていた店主が物忘れに…近所のお客さん達が気がつき始めた(Sさん) ○5丁目：高齢者2人暮らし→夫が入院されて妻が1人に。時々娘が来てはいるが…(Tさん) ○5丁目：消防車が入れない通りがある	○4・5丁目：毎月1回高齢者の食事会かお茶会をしています ○5丁目：お茶会をしています。年5回くらいを予定しています	—
多摩平(東側)	○5丁目：徘徊中に信号無視で道路を横断する男性高齢者 ○5丁目：空き家の管理(庭の草木が道路に伸びていて邪魔です)	○都営4丁目：あったかい手と手 ○3-36：今月から認知症になって来ている方を5人位が集まる食事会を始めた。これから月1回開催する計画。	—
多摩平(西側)	○アパートを出され、地域を徘徊している方がいる(荷物を台車に積んでいる) ○入院先からいなくなり連絡先分からず、家族と連絡取れず(個人情報で邪魔をしている) ○多摩平の森：介護している人の精神と健康が心配	○4-12：共同購入を利用して、荷物が来るまで読書会をしている ○6-36：地域の方が1ヶ月に1回集まり色々活動している ○多摩平の森：絵手紙の会(木)、編み物(金)、囲碁将棋(隔火)、折り紙教室(隔火)、食事会(第2・4土)、カラオケ(第1・3土)、映画(第1木) ○多摩平の森：よりみちさくら(火・木・金・土) ○多摩平の森：11/7(土)敬老の集いと防災訓練とバザーの集いを行います	—

2-2-2 相談窓口の設置

(1) 取組の概要

「気にかかけ」運動に関心があるけれどまだ仲間がいない、説明会を開く前に話を聞いてみたい、あるいは既に活動しているけれどあまりうまくいっていないという方々が気軽に相談ができるよう、毎月15日を“相談日”と定めて専門家が常駐する体制を整えました。

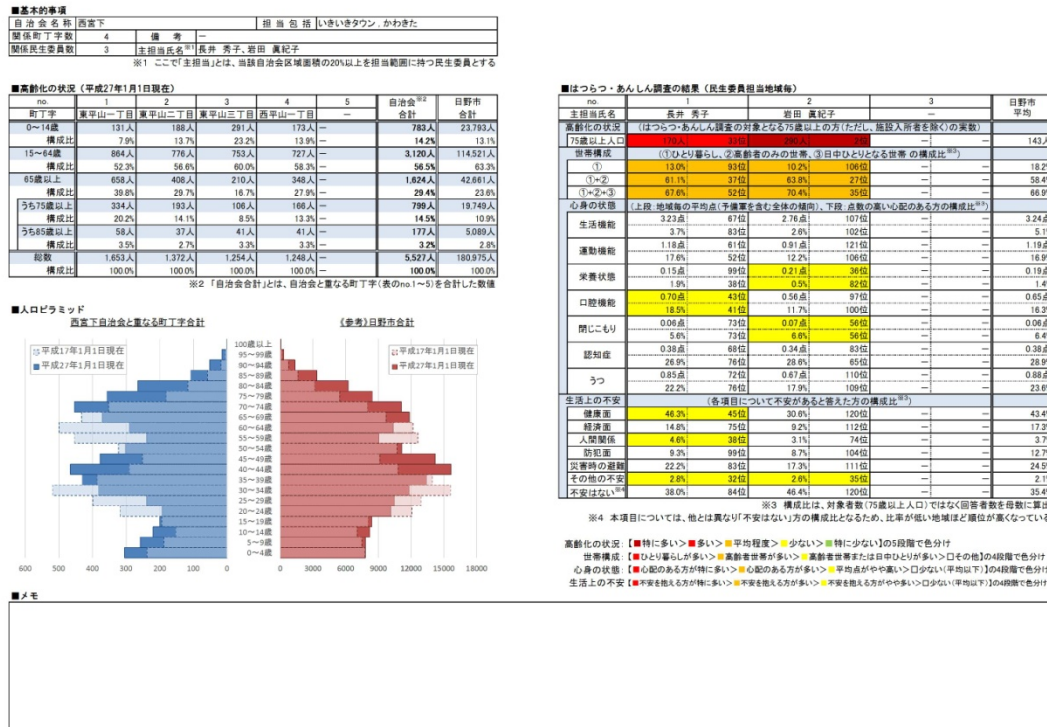
“相談日”については、見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム（第3章参照）、ニュースレターや地域懇談会（第4章参照）、前項で紹介した出張説明などの場を活用してPRを行いました。このようにPRが十分でなかったためか、あるいは市役所まで足を運ぶという点が障害となったためか、利用者はいませんでした。

▼ “相談日” の概要

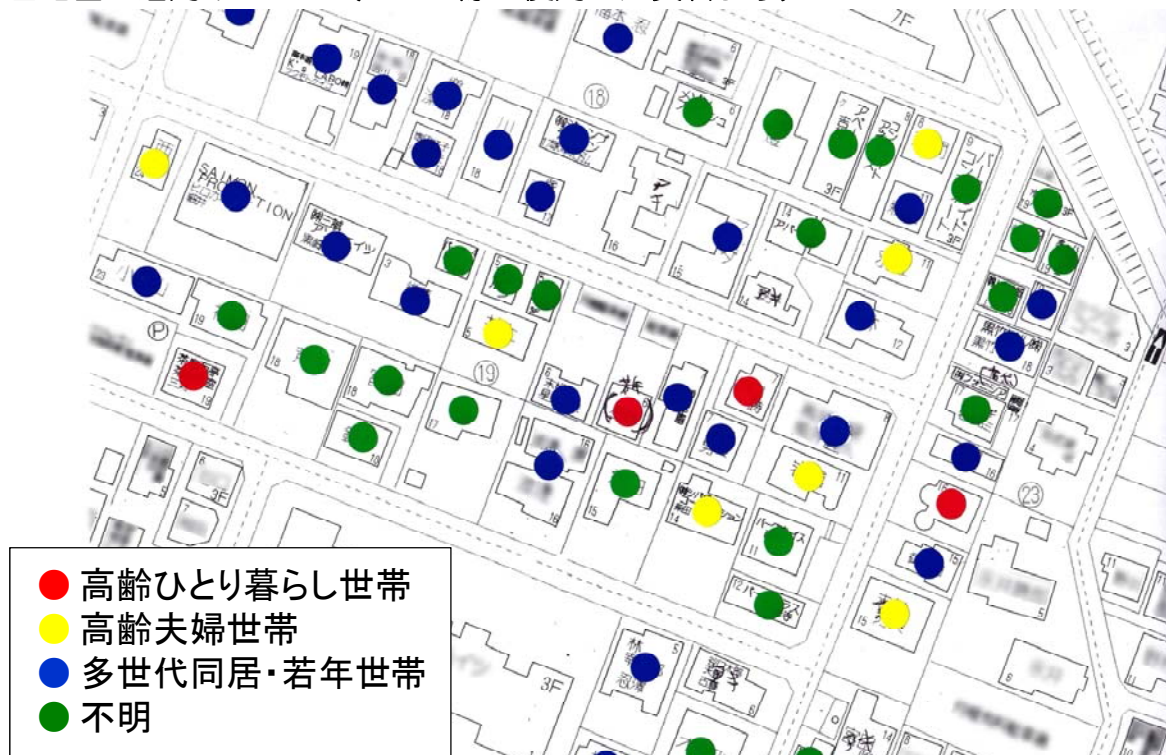
開催日時	毎月 15 日 10：00-17：00 (15 日が土・日・祝日にあたる場合は翌平日に振り替え)
開催場所	日野市役所 2 F 高齢福祉課窓口 (相談自体は市役所内の打合せスペース等で実施)
相談日に できること	1. “気にかかけ”運動の概要説明&悩み事相談 ・「“気にかかけ”運動地域展開の手引き」をお配りし、運動の趣旨や基本的な進め方、ご近所を気にかけるポイントなどをご説明 ・地域の悩み事をお聞きして、参考事例をご紹介したり、まずどんなことに取り組めば良いかをご提案（一緒に考えます） 2. 地域の高齢化等の情報提供 ・町丁目や自治会毎（町丁目データを集計）の高齢化の進捗状況、地域毎のお付き合いの傾向などの参考となる資料をご紹介 3. 地域の白地図のプレゼント ・事前に自治会名や必要な範囲を聞いて、“気にかかけ”運動で推奨している「ご近所の顔と名前を把握する」際に役立つ大判の地図（白地図）をプレゼント 4. お住まいの地域へのお出張説明会に関する相談 ・大勢で話が聞きたいという場合には、まずは相談日に代表の方数名に来ていただき、日程や会場、説明内容等について事前に打ち合わせを行うことを想定

(2) 取組の実績

▼地域の高齢化等の情報提供（情報提供シートの例）



▼白地図の活用イメージ（PRの際に使用した資料より）



2-3 地域展開の成果と課題

各地域での取組の状況を踏まえて今年度の成果と課題を以下の通り整理しました。

▼地域展開の成果と課題

成果	・自治会やその他組織からの問合せ、地域包括支援センターからの要請などを通じて、昨年度以上の頻度で勉強会・説明会を開催することができました。 ・勉強会や説明会の開催にはつながらなかった問合せも多数あり、PR の成果か地域での関心が高まっています。 ・実際に勉強会を開催した地域で、交流会が定期的に行われるようになるという具体的な動きが出てきています。
課題	・勉強会や説明会とあわせて、毎月1回「相談日」を設けて関心がある地域の後押しをすることを狙いましたが、市役所まで来てもらうことの難しさか、相談なしという結果となりました。 ・新しいPRのルートとして、災害時用支援者支援等の関連する取組との連携を計画していましたが、実際にはうまく進めることができませんでした。 ・地域包括支援センターからは「取り組み内容がわかりづらいためPRしづらい」という指摘がありました。
対応案	・入口をつくる ：見守り支援活動に関心のある不特定多数の方が参加できるシンポジウムのような取組を継続的に開催する ：はつらつあんしん調査の中で「見守りを希望する」という回答が多かった地域を直接訪問してPRを行なう ・形をつくる ：分かりやすい目標ややりがいを感じられるような基本パターンを用意する

第3章「ネットワークの課題解決のための検討」

3-1 検討の進め方

ネットワークの課題解決に向けた検討は、平成26年度に立ち上げた、地域包括支援センターと高齢福祉課で構成する「見守り支援ネットワーク検討部会」を中心に進めています。

平成26年度は、懸案事項となっていた各種課題の解決の方針を明らかにし、特に以下の課題解決に向けて「シンポジウム」を開催することを決定しました。

- ✧ ふれあい見守り推進員等協力者の負担感を軽減する
- ✧ 事業をPRし協力者を増やすことで体制の充実と世代交代等を可能にする

平成27年度は、この「シンポジウム」に加えて、見守り支援ネットワークの思い出の募集等の企画を並行して検討・実施し、ネットワークの課題解決を図りました。

▼取組の内容

開催時期	取組項目	内容
平成 27 年 5 月 23 日	第 1 回見守り支援ネットワーク 検討部会	・平成 27 年度のスケジュールについて ・レポートの書式の内容確認 ・過去のシンポジウムの内容確認等
7 月 27 日	第 2 回見守り支援ネットワーク 検討部会	・気かけ運動の地域展開の状況報告 ・シンポジウムの開催条件・実施内容等 －開催日時と開催場所について －主な対象者について －ゲストの人選について －プログラムの内容について
10 月 29 日	第 3 回見守り支援ネットワーク 検討部会	・気かけ運動の地域展開の状況報告 ・シンポジウムの開催方針について －日程、会場、ゲスト人選の確認 －プログラムの内容検討 －思い出集の募集に関するお願い
11 月～12 月	見守り支援ネットワークの思い出 の募集	・レポート（記録票）と一緒にふれあい見守り推進員へ募集用紙を配布・回収 ・その後、思い出集としてとりまとめ（4-2-1 参照）
12 月 18 日	第 4 回見守り支援ネットワーク 検討部会	・シンポジウムの開催に関する最終確認 －シンポジウムの全体像の確認 －感謝状贈呈の対象者の抽出 －当日の進行と役割分担 －PRのお願い
平成 28 年 1 月 27 日	高齢者見守り支援ネットワーク 10 周年記念シンポジウム	・第一部「10 年間の振り返り」 ・第二部「ゲスト講演」
2 月 19 日	第 5 回見守り支援ネットワーク 検討部会	・シンポジウムの振り返り ・既存の取組内容の今後の姿の検討

3-2 検討の実施状況

(1) 取組の概要

高齢者見守り支援ネットワークの立ち上げから10年という節目を迎えることを記念して、これまでの活動を振り返り、これから10年を展望するシンポジウムを開催しました。当日は事務局も含めると100名超が参加する盛会となりました。

シンポジウムの前半は、まず「10年間の振り返り」と題してこれまでの活動概要をまとめた報告等を行いました。後半には、これから10年の進むべき道のヒントとして、外部からゲストをお呼びして「ご近所福祉のすすめ」と題した講義をしていただきました。また、本会場とは別に展示パネル、休憩コーナーを設置した展示スペースを用意して、既存の協力者同士の交流、新規の協力者の獲得を図りました。

シンポジウムの開催後には、概要を伝えるニュースレター(4-2-1参照)や記録DVDを作成して、参加できなかった方々にも情報提供を実施しています。

▼「高齢者見守り支援ネットワーク 10 周年記念シンポジウム」の概要

開催目的	平成 18 年度に見守り支援ネットワークの全市展開をはじめて丸 10 年という節目の年に、次の 10 年に向けた基礎固めを行う。 - ーこれまで熱心に活動していただいた方々に感謝し、引き続き協力をお願いする - ーやる気はあるが活動目標を見失っている方々に新しいモチベーションを与える - ーイベントを通じて、活動が縮小しつつあるネットワークの新しい仲間を増やす
開催日時	1 月 27 日（水）13：45～16：00（展示スペースは 17 時まで開放）
開催場所	ひの煉瓦ホール（小ホールおよび展示室）
参加者	＜市民＞ ・見守り支援ネットワーク協力者（民生委員、ふれあい見守り推進員、協力事業所、ふれあいサロン、ちょこっと困りごとサービス協力員） ・一般市民 合計約 90 名 ＜ゲスト等＞ ・住民流福祉総合研究所所長 木原孝久氏 ・前実践女子短期大学教授 蘭田碩哉氏 ・大坪市長 ＜事務局＞ 地域包括支援センター、高齢福祉課、委託事業者 計 19 名
プログラム	1. 開会 2. 第一部「10 年間の振り返り」 ・これまでの活動の報告 ・感謝状の贈呈 ・市長挨拶 3. 第二部「ゲスト講演」 ・テーマ「ご近所福祉のすすめ」 4. 閉会 その他 「展示スペース」

▼これまでの活動の報告の概要（第一部「10年間の振り返り」より）

◇ 皆さまが知らない（？）新しい活動も含めて、これまでの歩みを簡単に振り返る情報提供を高齢福祉課より行いました。

高齢者見守り支援ネットワーク

これまでの活動の報告

2016年1月27日
日野市健康福祉部高齢福祉課

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 1

はじめに

日野市の高齢化の状況は？

- 市内の65歳以上の人口は約 人(平成28年1月1日現在)
- このうち介護保険サービスを受けている方は約 人
- 参考までに、老人クラブの会員数は約 人

日野市全体 ← 介護サービス対象 ← 老人クラブ会員数

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 2

見守り支援ネットワークの狙い

元気高齢者をサポートする仕組みづくり

- 全体の8割(当初からほぼ一定)を占める元気高齢者を支える、公的な制度と私的な介護等の間をつなぐ仕組みづくりが狙い

「安心していきいきと暮らせるまち」づくりを目指して
社会的に孤立しがちな高齢者を
地域での支えあいを通じて見守り、支援する
『高齢者見守り支援ネットワーク』を構築する！！

➢ この取組のトレードマークがこちら
市内のお店の店先などに貼られています
※誕生秘話：市章が図の中に隠されています

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 3

事業の検討の開始(平成16年度)

口でできることから 少しずつ

- 高齢者の生活実態を調査して、心配な高齢者をいくつかのパターンにまとめ、これに対応した支援内容を整理しました
- そして、できることから 地域の状況に応じて 持続的な活動を構築することを目標に 皆さまの協力を得ながら少しずつ活動を広げました

例えば、訪問しても
ドアを開けてくれない方
→①ふれあい訪問調査
で定期的な訪問

健康面で不安を抱える方
身寄りのないひとり暮らしの方
→②日常生活を通して
「見守り・声かけ」

体力低下・怪我・風邪などで
普段の生活に困っている方
→④ちょこっと困りごと
サービスでお手伝い

家に閉じこもりがちな方
1人でふさぎ込んでいる方
→③ふれあいサロンで
楽しく交流

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 4

①ふれあい訪問調査

民生委員
約120人

口事業展開の基礎資料となっているのが…

- 高齢者見守り支援ネットワークの立ち上げに先立って市内の高齢者の生活実態やニーズを把握する訪問調査を開始
- 現在も、「はつらつ・あんしん調査」と名前を変えて、定期的に市内の高齢者の状況把握に努めています

平成26年度調査の概要

- 赤色が濃い
⇒75歳以上の方が多い
- 黒丸がついている
⇒ひとり暮らしの方が多い
- 編み目が濃い
⇒外出等が減っている方が多い

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 5

②見守り・声かけのネットワーク

協力事業所
387事業所

推進員
203人

口まず最初は、少し心配な方を「見守る」ため…

- 専門機関「地域包括支援センター」と地域の協力者「協力事業所」「ふれあい見守り推進員」が連携する仕組みを構築
- 10年前から続く「見守り支援ネットワーク」の基本型
- 日野警察署、日野消防署、日野郵便局、日野市ゴミゼロ推進課の4機関も参加しています

①不安発見 ②連絡・相談 ③対応 ④支援依頼 ⑤安全確認

身の回りで「あれっおかしいな」と思うようになったら…
地域の包括支援センターの相談員が状況を把握し、必要サービス・相談の調整や実施を依頼

高齢者に本人と相談し、安全確認等を希望される方には…
地域の協力者・協力者による定期的な見守り、声かけを実施

介護保険サービスなどその他の支援

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 6

③ふれあいサロン

ふれあいサロン
6箇所(6団体)

口次に“向こうから来てもらう”新しい形を目指して…

- 地域の中でお茶会等を主催する方々と協力して、地域の空家や空き店舗等のスペースを活用して「いつでも気軽に立ち寄れる」地域の「たまり場」づくりを進めています
- 集まり交流する中で「自然に見守りができている」状態が狙い

手芸や囲碁・将棋などの趣味の活動も楽しめる

時にはイベントも開催される(写真は相模に関する講演)

いつでも お茶等を飲みながら誰かとしゃべりができる

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 7

④ちょこっと困りごととサービス

協力員
7人

口最も難易度が高いと考えていたお手伝いも最後に…

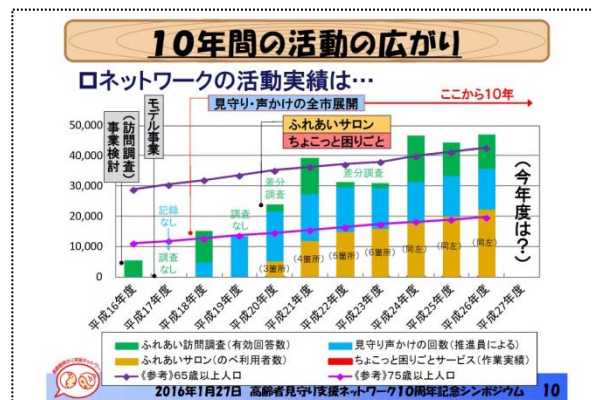
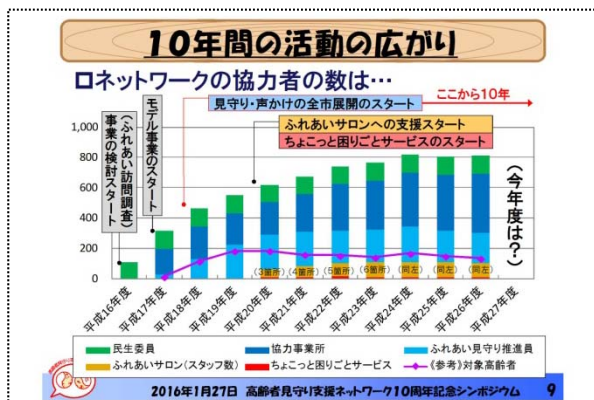
- ひとり暮らしの高齢者や障がい者の方々の日常の「ちょっとした困りごと」のお手伝いをする仕組みづくりに着手
- 軽作業を1回300円でお手伝いするサービスです

受付に依頼の電話が入る
「ちょっとお願いしたい作業があるのですが。」
「はい、(社福)おおぞです。」

対応可能
連絡を受けた「協力員」が依頼者のお宅を訪問して作業を実施
電球等の購入・交換
タンスの開封や荷物の移動など

対応不可
「ちょこっと困りごととサービス」での対応ができない場合は、希望する内容に対応できるサービスが他にないかを調べて案内

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 8



前半の5年間／後半の5年間

ロ前半の5年間の成果と課題は…

- 当初計画の“形”はできた／「何かあったら包括へ」が浸透した
- 実際に高齢者の異変発見や生きがいづくりにつながっている
- しかし、まだまだ目が届かない方がいる
- （活動実績は横ばい〜成長中だが）協力者は伸び悩んでいる
- 活動開始時からさらに高齢化が進んだ（自分達も歳を…）

ロそこで後半の5年間は…

- 「私は見守ってもらわなくても大丈夫」を「お互いに気にかけてみましょう」にしていきたい
- こうした意識を広げてもっと仲間を増やしていきたい

そこで… 新しい活動の模索

“気にかけて”運動

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 11

気にかけて運動

活動開始8団体 説明会等実施15団体

ロ気にかけて運動の中でお願いしていること

- 「あれっ」と思った時の連絡ルートを決める（例：個人→班長→包括）
- 「気にかけて」のポイントを周知する（パンフレットを用意しています）
- ご近所の顔と名前を把握する（名簿・地図、顔合わせの機会づくり）

まずはステップ① 見守る言わさる 聞かざるからの脱却

もっとできたらステップ② 一歩踏み込んだ 地域づくりへ

最終目標ステップ③ 向こう三軒両隣へ

- 地域の中で高齢者を見守る仕組みをつくる
- 高齢者が集まれる機会・場所をつくる
- 実際の課題を調べて対応を検討する など

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 12

気にかけて運動

ロ「一歩踏み込んだ地域づくり」の事例が生まれています

ロN自治会「高齢者見守り推進委員会」では…

- 自治会独自にアンケートを実施して「見守り」希望者を発見
- 推進員に相当する方を集めて、見守り・声かけの活動を始めています（市の登録より遙かに多い約20人の方を見守り中）

ロH自治会有志「おしゃべりサロン」では…

- 地域内の交流がなくなったことを憂う有志が、地区センターを使って趣味の作品を展示する文化祭を開催
- イベントの好評を受け、集まる機会となるお茶会を開催
- これがさらに評判を呼び、月1の定期開催→週1のサロンに

ロT団地有志「手と手の会」では…

- 自治会が開催するふれあい喫茶へのお誘いを1つの口実に団地内のひとり暮らし高齢者の自宅を月に1回突撃訪問（対象となる約100軒の自宅は自分達で探し出している！）
- 不在宅には訪問者の名前と連絡先を書いた紙をポストに投函

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 13

気にかけて運動

ロ本日も越しの皆さまにお願いしたいこと

所属する自治会や周りの仲間に「こんな話があるよ」とPRをお願いします

既存の活動との相乗効果を！ 月1回、相談日を設けています

まずはステップ① 見守る言わさる 聞かざるからの脱却

もっとできたらステップ② 一歩踏み込んだ 地域づくりへ

最終目標ステップ③ 向こう三軒両隣へ

「自分でも何かやってみたい」「周りにやる気のある方がいる」という時は包括・市まで一報を

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 14

これからの見守り支援ネットワーク

ロご近所の力が悲しい事件を未然に防ぐ特効薬（深刻化する前の関係づくりが大事）

- これまで培ってきたネットワークを核に、ご近所付き合いの中でお互いを「気にかけて」意識を広げることで、早期に必要な医療や介護サービス等につなげていく
- 毎日の挨拶やちょっとした機会に声をかける、そんな気楽なところからご近所の関係づくり・地域づくりを進めていく（これまでの活動は周りの人に言いづかった）

ネットワークの輪を広げる！

“向こう三軒両隣”のつながりを目指す！

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 15

10年間

ありがとうございました

これからも（無理のない範囲で）

ご協力お願いします

2016年1月27日 高齢者見守り支援ネットワーク10周年記念シンポジウム 16

▼感謝状の贈呈の概要（第一部「10年間の振り返り」より）

- ◇ 10周年という節目を記念して、見守り支援ネットワークを構成する「民生委員」「協力事業所」「ふれあい見守り推進員」「ふれあいサロン」「ちょこっと困りごとサービス協力員」「気かけ運動活動団体」という6種の協力者の中から、活動歴がおおよそ5年以上の個人・団体を対象に感謝状を贈呈することにしました。

（※元民生委員の方々も含めて日野市民生児童委員協議会宛に1通）

- ◇ シンポジウムでは、この6種の協力者の代表各1名に感謝状をお渡ししました。



協力事業所代表 ふれあい介護ショップりんりん様



ふれあい見守り推進員代表 神田和代様

▼市長挨拶の概要（第一部「10年間の振り返り」より）



「本日は高齢者見守り支援ネットワークシンポジウムにご来場いただきまして誠にありがとうございます。この高齢者見守り支援ネットワークが10年続いたのも、ひとえに今日感謝状を差し上げた皆さまをはじめ関係者の皆さまのご支援とご協力のたまものです。改めて心から感謝申し上げます。」

「高齢者見守り支援ネットの全市展開がスタートした平成18年は高齢化率が18.4%程で、今より5、6ポイント低いのですが、それでもひとり暮らしの高齢者や、高齢者のみの世帯、さらに老々介護の世帯が増えていました。そういう中で孤立死が増えていくことも懸念されるという状況で、“地域で孤立化する高齢者をどう支えていけば良いのか”を真剣に考えた答えが“高齢者見守り支援ネットワークをつくっていこう”ということでした。」

「立ち上げ当時は本当に手探りでしたが、創意工夫あふれる様々な見守りの仕方がありました。一方、心配な方に“私はまだ大丈夫”と言われて加入していただけないという悩みもありました。また、ネットワークに加入していた単身高齢者の方が亡くなって大変落ち込んだこともありました。しっかり見守っていただいていた推進員さんの心のケアが大きな課題でした。なかなか思うように広がっていかなかったと思います。」

「そんな中で、推進員さんや協力事業所さんによる見守り・声かけだけではなく、“ふれあいサロン”や“ちょこっと困りごとサービス”、そして“気かけ運動”という新しい展開を図って、この高齢者見守り支援ネットワークは着実に進化をしてきた。そんな10年ではなかったかなと思います。」

「2040年には日野市でも“市民の3人の1人強が65歳以上”という社会がやってきます。そんな中で“高齢者を含む誰もが住み慣れた地域でいきいきとその人らしく暮らせる”それを支える仕組み、まさに地域づくりがこのネットワークの使命だと思っています。このシンポジウムがこれからの高齢化社会とネットワークの活動について考えるきっかけになれば幸いです。」

▼第二部「ゲスト講演」の概要

- ◇ ゲストの木原先生から「ご近所福祉のすすめ」と題して、地域での活動の重要性や具体的な進め方について、実例を交えながらとても分かりやすく教えていただきました。

特別ゲスト：住民流福祉総合研究所 所長 木原孝久氏

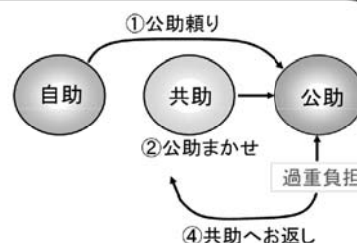


早稲田大学第一政治経済学部卒業後、福祉施設職員や福祉医療雑誌記者、(社福)中央共同募金会を経て住民流福祉総合研究所を設立。

40年以上にわたり追求してきた“住民流の福祉”を広げるため、住民の助け合いの実態を把握する「支え合いマップ」の作成、「助けられ上手講座」の開催や「ご近所福祉サポーター」の養成、「おつき合い革命」の伝導など、実践に裏付けられた様々な取組を全国で展開している。講演、執筆、ラジオ・テレビ出演等多数。

1. 今、助け合いが弱まる一方

- ◇ 公的サービス（公助）が充実した結果、助け合い（共助）が引っ込んでしまった
- ◇ ところが、行政の負担が大きくなって、弱体化した共助に福祉が返ってきているのが現在の状況

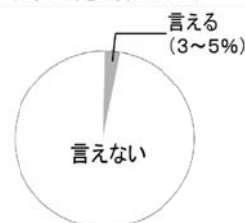


2. 助け合い力を強めるために ～ 3. 福祉は自助から始まる

▼「助け上手」と「助けられ上手」が揃って助け合いが始まる

- ◇ 困っている人がいたら「頼まれなくても関わる」「頼まれたら関わる」という人が合計 95%
- ◇ では、何故助け合いが始まらないかと言えば、自分が困った時に「助けて！と言える」人が約 5%しかいないから（長野県須坂市での調査結果）
⇒出しゃばりをつぶさない！そして自分から「お願い」と言うことが大事！

「助けて！」と言えるか？



▼「助ける」と「助けられる」の2つの福祉活動がある

- ◇ 「助けられ上手」こそが自助である
- ◇ 助けられる体験をしないと「助け上手」にはなれない／逆もまたしかり
- ◇ だから、ボランティア講座よりも助けられ上手講座を
⇒「助け上手」と「助けられ上手」の両刀遣いで免許皆伝！

助けられ上手さんを表彰



3-3 検討の成果と課題

ネットワークの課題解決のための検討の実施状況を踏まえて今年度の成果と課題を以下の通り整理しました。

▼ネットワークの課題解決のための検討の成果と課題

成果	・前年度から開催していた地域包括支援センターとの「検討部会」を回数を拡大して開催し、課題解決に向けた以下の取組を進めることができました。 ①前年度に長年の懸案事項となっていたレポートの作成・回収方法を改めることを決定したことを受けて、レポートの新たな書式の内容について確認しました（変更なし・運用方法の中で対応する）。 ②ふれあい見守り推進員や協力事業所のモチベーション維持等を目的として、「見守り支援ネットワーク 10 周年記念シンポジウム」を企画・開催しました。 ③その他、見守り支援ネットワークの個別の取組内容について情報交換や意見交換を行う中で、気かけ運動のPRを一部の地域包括支援センターの連絡会等の中で実施する流れをつくることができた。
課題	・「レポートの回収」のような具体的な課題の対応については検討しやすい一方、「今後の10年の方向性」といった見えないものを会議の中で構築するのは難しいことが分かりました。 ・関連する他の取組との調整は地域包括支援センターとだけでは進めるのが難しいことが分かりました。
対応案	・検討部会は以下の方針で開催することが考えられます。 －課題や方向性の共有を第一の目的とする －「今後の10年の方向性」の検討は叩き台に対して意見をもらうこととする。 ・叩き台の用意は検討部会とは別に以下のとおり作業を進めることが考えられます。 －モデル地区を定めて目に見える形をつくる －他の関係者も入れた会議あるいは個別の相談により調整を進める

第4章「事業PRの実施」

4-1 事業PRの進め方

これまで本事業のPRは、見守り支援ネットワーク関係者に配布する「ニュースレター」を通じた事業の経過報告と、「広報ひの」や市民活動フェアへの参加等を通じた不特定多数に対する見守り支援ネットワーク全体のPRの2本柱で実施してきました。

平成27年度は「ニュースレター」の作成・配布を継続して実施したほか、前年度より地域包括支援センター等から連携の必要性が指摘されていた地域懇談会へ参加をし、他の参加者の方々へ見守り支援ネットワークおよび気かけ運動のPRを実施しました。

▼事業PRの実施内容

発行／開催時期	取組項目	内容
平成27年 9月	ニュースレター（第23号）の発行	・見守り支援ネットワークの新しい取組 “気かけ”運動の展開を進めています
平成28年 2月	ニュースレター（第24号）の発行	・見守り支援ネットワークの10周年を記念してシンポジウムを開催しました
2月20日	三中地区地域懇談会への参加	・懇談の輪に交じって参加者の方々の思い などを確認 ・情報提供の時間を借りて見守り支援ネットワークおよび気かけ運動のPRを実施
4月	ニュースレター（第25号）の発行	・見守り支援ネットワークの思い出をまとめました！

4-2 事業PRの実施状況

4-2-1 ニュースレターの作成・配布

(1) 取組の概要

ニュースレターは、見守り支援ネットワークの立ち上げ当初から高齢福祉課が発行しているPR資料です。ふれあい見守り推進員、協力事業所、民生委員等のネットワークの協力者の方々に配布しているほか、一般の市民の方にも高齢福祉課や地域包括支援センター等の窓口で手にとっていただけるようになっています。

平成27年度は以下の通り、合計3号のニュースレターを発行しました。

▼ニュースレター第23号の概要

発行時期	平成27年9月
内 容	特集「見守り支援ネットワークの新しい取組“気にかかけ”運動の展開を進めています」 ＜表面／1頁＞ ・“気にかかけ運動”の概要の紹介 ＜見開き／2・3頁＞ ・地域の皆さまにお願いしたいこと ＜裏面／4頁＞ ・“気にかかけ運動”相談日の紹介

▼ニュースレター第24号の概要

発行時期	平成28年2月
内 容	特集「見守り支援ネットワークの10周年を記念してシンポジウムを開催しました！」 ＜表面／1頁＞ ・協力者の皆さまへの感謝 ＜見開き／2・3頁＞ ・第二部「ゲスト講演」の概要 ＜裏面／4頁＞ ・第一部「これまでの活動の振り返り」の概要

▼ニュースレター第25号の概要

発行時期	平成28年4月
内 容	特集「見守り支援ネットワークの思い出をまとめました！」 ＜表面／1頁＞ ・どんな“思い出”が集まったのでしょうか？（一部抜粋） ＜見開き／2・3頁＞ ・“思い出”の具体的な内容 ＜裏面／4頁＞ ・引き続き皆さまの思い出等を募集します

(2) 取組の実績

▼ニュースレター第23号の内容

「気にかけ」運動 相談日」をご利用ください

「気にかけ運動って何？どんなことをすればいいの？」「活動しているけれどうまくいかない」という方々のために、月に1回の相談日を開催中です。

と き : 毎月15日 10:00-17:00
(15日が土・日・祝日にあたる場合は翌平日に振り替え)

と ころ : 日野市役所2F高齢福祉課窓口までお越しください
(ご相談自体は市役所内の打合せスペース等で行います)

備 考 : 他の方と相談の時間が重なってしまった場合お待ちいただくことがありますので、あまり時間のない方は下記連絡先まで事前にご連絡ください

「相談日」にできることは…

- 1. “気にかけ”運動の概要説明＆悩み事相談**
 「気にかけ」運動地域展開の手引きをお配りし、運動の趣旨や基本的な進め方、ご近所を気にかけるポイントなどをご説明します
 地域での悩み事をお聞きして、参考事例をご紹介したり、またどんなことに取り組みがよいかを提案します（一緒に考えます）
- 2. 地域の高齢化等の情報提供**
 町丁目や自治会毎（町丁目データを集計）の高齢化の進捗状況（市内での順位や人口ピラミッド等）、地域毎のお付き合ひの傾向などの参考となる資料をご紹介します
- 3. 地域の白地図のプレゼント**
 事前に自治会名や必要な範囲を伝えていただければ、「気にかけ」運動で推奨している「ご近所の顔と名前を把握する」際に役立つ大判の地図（白地図）をお渡しすることができます
- 4. お住まいの地域への出張相談**
 一度の都合上相談日には一度に数名の方しか対応できないため、大勢で話が聞きたいという場合にはこちらから説明に伺うことも可能です（※毎月15日以外でもOK）
 一まずは相談日に代表の方数名に来ていただき、日程や会場、説明内容等について事前に打ち合わせを行うことをお奨めしています

ニュースレターに関する連絡・お問い合わせはこちらまで

日野市役所高齢福祉課在宅サービス係

電話：042-585-1111（内線2421）／ FAX：042-583-4198
 E-mail：kourei_zaitaku@city.hino.lg.jp
 高齢者見守り支援ネットワーク担当 まで

(※) このお知らせは再生紙を使用しています。このお知らせを廃棄するときは、資源ゴミとして出してください。

日野市高齢者見守り支援ネットワーク ニュースレター 第23号 平成27年9月

見守り支援ネットワークの新しい取組 「気にかけ運動」の展開を進めています。

日野市では、「誰もが安心していきいきと暮らせるまちづくり」を合言葉に、社会的に孤立しがちな高齢者を見守り、支援する「高齢者見守り支援ネットワーク」の構築を進めてきました。

しかし、現在のような限られたボランティアの方々のかみだけでは、昨今ニュースを騒がせている振り込み詐欺や孤立死、認知症高齢者の行方不明といった問題に対処することができません。

地域にお住まいの皆さまがお互いに「気にかける」意識を持つことが、心配な方を適切なタイミングで支援につなぎ、悲しい事件を未然に防ぐ特效薬となります。そこで、日野市では『気にかけ運動』と題して、「気にかける」意識を広げる地域づくりに新たに取り組んでいます。

実際に市内でこんなことがありました

「趣味の会の講師の方が時間になっても現れない。何かあったのでは」との電話が高齢福祉課に入った

高齢福祉課から地域の自治会へ問合せを行った（日頃から繋がりがあり連携がとり易かった）

すぐにお宅が判明し、中で倒れていることが分かったため、迅速な緊急搬送につながった

日頃の「気にかけ」が緊急時の迅速な対応につながります！

どんなことをすればいいのかわからない方は、内面をご覧ください

「もっと詳しい話を聞いてみたい」という方は、裏面をご覧ください

地域の皆さまにお願いしたいこと

まず、これだけはお願いしたいのが…

ステップ①
見える 言わさる 聞かざる からの脱却

周りの方を縦や横に「気にかけて」、深刻な状況になる前に適切なサービスにつなげること、そのために高齢者等のちょっとした異変を発見して、速やかに地域包括支援センターに連絡が入る体制を地域の中で構築しましょう。

ポイントは右の3点です。

（周りの様子を完璧に把握することはできません。“ちょっとした異変”とは、“お隣の顔を最近見ていない”“この間ちょっと元気なかったな”という程度でOKです。

①だけでは足りない／もっとできそうと思ったら…

ステップ②
一歩踏み込んだ地域づくり

市内にはステップ①からもう一歩踏み込んだ活動を展開している地域もあります。すぐには真似できないかもと思われるかもしれませんが、“これ”と決めて周りに声をかければ協力者がきっと現れるはずです。是非参考してみてください。

最終的に目指すのは…

ステップ③
“向こう三軒両隣”のお付き合いへ

日頃からお互いに気にかけてあげていけば、相手の様子の変化に気付いてあげられるだけでなく、日常のちょっとした困り事や災害時に助け合える関係にすることが期待されます。

道ばたでの挨拶などちょっとしたことから、最終的には「困った時はお互い様」の精神で支えあう「向こう三軒両隣」の関係を再構築しようというのが「気にかけ運動」の狙いです。

「これだけはお願いしたい」ステップ①は、自治会等の組織ぐるみでの検討をお願いしています

(ア) “あれっ”と思った時の連絡ルートを決める

孤立死のような悲しい事件が起きてしまった場合でも、後からご近所の方に話を聞くと「何となく気づいていた」というお声が増えてくる可能性があります。地域の中の小さな気付きを埋もれさせないために、地域の中で相談や連絡ができるルートを決めておきましょう。

- 例：お住まいの地域を担当する「地域包括支援センター」を周知する
- 例：ブロック毎の連絡ルートを決める

(イ) “気にかけ”のポイントを知り周知する

「あれっ」と思うことがあっても、確信を持てずに1人で悩んでいると「間違っていたらどうしよう」「きっと悪い噂だろう」と考えて、連絡がしづらくなったり、連絡が遅れてしまうことがあります。上で決めた連絡ルートと一緒に、どういった点を「気にかけ」れば良いのかを地域の方に周知しましょう。

- 例：「気にかけ」のポイントをもとめたチラシを各戸に配布する／役員で引き継ぎを行う
- 例：「これだけは」というものを自治会の目標（標語）にして周知を図る

(ウ) ご近所の顔と名前を把握する

見知った相手なら、声がかかりやすく また 様子の変化にも気が付きやすいものです。ご近所の様子を知ること、また、住民が顔をあわせる機会や交流のきっかけを意図的に増やすことで、お互いに気にかかけようという意識を育てましょう。

- 例：清掃や回覧、お祭りなどのあるものを活かして、住民が顔をあわせる機会を増やす
- 例：地域の状況をまとめた地図や名簿を作成して／充実させて、どこにどんな人がいるかを把握する

ステップ②は応用編となります。こちらはステップ①のように多様な意見を持つ人が集まる自治会等の組織ぐるみではなく、まずは少人数のチームでスタートする方がやりやすいかも知れません。

例えば、以下のような取組を行っている自治会・団体があります。

- 地域の中で気になる方を見守る仕組みをつくる：担当を決めて地域の高齢者のお宅をまわり、定期的に（外から様子を確認）や「声かけ」を行う / 対象となる高齢者を紹介できる可能性があります
- 高齢者が集う地域のたまり場（サロン）をつくる：自宅に閉じこもりがちな高齢者が気軽に集まれるお茶会などを定期的に開催する / 「認知症カフェ」として機能することも期待される取組です
- 地域の中で困っている方々を支える仕組みをつくる：地域の具体的な課題に目を向け、例えば災害時の避難の問題、ゴミ出しの問題等の対策に取り組む / 災害時の避難問題に取り組む自治会には、支援を必要とする方（要介護3以上で支援を希望する方）の名簿を提供しています

市内外の取組事例を紹介する「手引き」をご用意しています！また、その他の事例や具体的な進め方などを紹介・提案する「「気にかけ」運動 相談日」を設けていますのでご利用ください！

37

▼ニュースレター第24号の内容

第一部：これまでの活動の振り返り の様子

会の冒頭に高齢福祉課より、以下のような内容をご説明しました。

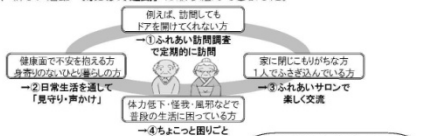
ネットワークの狙い

全体の約8割を占める元々高齢者を支える、公的な制度と私的な介護等の隙をつなぐ仕組みづくりが狙い

「安心していきいきと暮らせるまち」づくりを目指して
社会的に孤立しがちな高齢者を
地域での支えあいを通じて見守り、支援する
『高齢者見守り支援ネットワーク』を構築する！！

検討の経緯と現在の活動内容

平成16年度より、まず高齢者の生活実態を調査して心配な高齢者のパターンをまとめ、地域の皆さまの協力を得ながら、**できることから少しずつ活動を広げて**きました。
特に後半の5年間は、近所でお互いを気にかける意識を広げて仲間を増やしていくことを念頭に、新しい活動「**気かけ運動**」に取り組んでまいりました。



これからの見守り支援ネットワーク

高齢化の一層の進行が予想される中、ご近所の力・地域の力がこれからの見守り支援ネットワークを支える大きな力になります。
皆さまと一緒に取り組んできた様々な活動を今後とも着実に実施していくとともに、今後は地域づくりにより力を入れていきたいと考えています。
10年間ありがとうございました。これからもよろしくをお願いします。

ニュースレターに関する連絡・お問い合わせはこちらまで

日野市役所高齢福祉課在宅サービス係

電話：042-585-1111（内線2421）／ FAX：042-583-4198
E-mail：kourei_zaitaku@city.hino.lg.jp
高齢者見守り支援ネットワーク担当 まで

(※) このお知らせは再生紙を使用しています。このお知らせを廃棄するときは、資源ゴミとして出してください。

日野市高齢者見守り支援ネットワーク

ニュースレター 第24号 平成28年2月

見守り支援ネットワークの10周年を記念して シンポジウムを開催しました！

多くの市民の皆さまにご協力いただいている「高齢者見守り支援ネットワーク」の立ち上げから10年という節目を迎えることを記念してシンポジウムを開催しました。

当日は、これまでの活動の振り返り、市長からの感謝状の贈呈、そして、全国の見守り活動等の応援をしているゲストをお呼びして次の10年を考える材料となる講演を実施しました。
今回はこのシンポジウムの概要をご紹介します。

協力者の皆さまのご尽力に感謝いたします！

活動歴がおおよそ5年以上の個人・団体の方を対象に感謝状を贈呈いたします。
シンポジウムの中では、見守り支援ネットワークを構成する「民生委員」「協力事業所」「ふれあい見守り推進員」「ふれあいサロン」「ちよこっと固りごとサービス協力員」「気かけ運動活動団体」の各個人・団体から代表1名の方へ感謝状をお渡ししました。

※民生委員については、元民生委員の方も含める意味で、日野市民生児童委員協議会といたしました。



協力事業所代表 ふれあい介護ショップりん様

ふれあい見守り推進員代表 神田和代様



大坪市長
実は立ち上げ時の
担当部長

この高齢者見守り支援ネットワークが10年続いたのも、ひとえに今日感謝状を差し上げた方々をはじめ関係者の皆さまのご支援とご協力のおかげです。心から感謝申し上げます。
立ち上げ当時は本当に手探りで、関係者の皆さまも不安があったと思いますが、創意工夫がふられる色々な方法で見守り支援活動に取り組んでいただき、高齢者見守り支援ネットワークは着実に進化をしてきた。そんな10年ではなかったかと思えます。

第二部：ゲスト講演 テーマ「ご近所福祉のすすめ」

ゲストの木原先生から「ご近所福祉のすすめ」と題して、地域での活動の重要性や具体的な進め方について、実例を交えながらとても分かりやすく教えていただきました。密度の濃い講演内容と先生のユーモアあふれる語り口をこの紙面で再現するのはとても無理ですが、その概要を以下にご紹介します。



ゲスト講師：住民福祉総合研究所 所長 木原孝久氏：早稲田大学第一政治経済学部卒業後、福祉施設職員や福祉医療雑誌記者、(社)中央共同募金会を経て住民福祉総合研究所を設立。40年以上にわたり追求してきた「住民の福祉」を広げるため、住民の助け合いの実態を把握する「支え合いマップ」の作成、「助けられ上手講座」の開催や「ご近所福祉サポーター」の養成、「おつき合い革命」の伝導など、実践に裏付けられた様々な取組を全国で展開している先生です。

はじめに ～あなたの「おつき合い」の流儀は？

最初に、自分のおつき合いの流儀を確認するテストを行いました。あなたは以下の10項目について「そう思う」ものに○、「そう思わない」ものに×をつけて、○がいくつかを試してみてください。

- (1) 自分や自分の家族のことは誰しもおきたい
- (2) 自分のことがご近所に噂にされるのはイヤ
- (3) 人に助けを求めるのは苦手だ
- (4) 人に迷惑をかけることだけは絶対にしない
- (5) 人のことはなるべく詮索しないようにしている
- (6) 誰かが認知症だと気づいても、誰にも言わないようにしている
- (7) 困っている人にはお節介りと言えない程度に関わる
- (8) 引きこもる人にも事情があるから、無理にこじあけるべきでない
- (9) お互いのプライバシーは十分に尊重し合うべきである
- (10) 隣人はあまり深入りせず、ほどほどのおつき合いを心がけている

全国的に○が7～8個の
人が一番多い
(○が多い人は見守り人)

ただし、設問の内容を
よく考えてみると、○が
多い人は「助け合いを
したくない」ということ
(○を減らす意識を！)

4. 住民の助け合いにはルールがある ～ 5. ご近所から地域を作り直す

▼地域は天性主義
◇ 近所(目安は50世帯)には、生まれ持った世帯の責任を持った人が動いている
◇ 引きこもりの人でも命が惜しいから誰かを見込んで頼んでいるもの
⇒ 本人が誰を見込むか(当事者主導)を把握して、見込まれた人に活躍してもらうのが住民流！

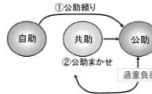
▼マップをつくることと見えてくる
◇ 「うちの地域にはそんな動きがない」と思うかもしれないが、見えないようにやっている(見え見えの動きは誰が隠れる)からそう思うのは当然
◇ 世話好きの人達が集まってどのような地図をつくれるかは地域の動きが見えてくる
⇒ この地図を元にどうすれば良いかを考えよう！

世話好きさんとは？
① 困った人から頼られる
② 困った人から頼られる
③ 困った人から頼られる
④ 困った人から頼られる
⑤ 困った人から頼られる
⑥ 困った人から頼られる
⑦ 困った人から頼られる
⑧ 困った人から頼られる
⑨ 困った人から頼られる
⑩ 困った人から頼られる



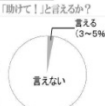
1. 今、助け合いが弱まる一方

◇ 公的サービス(公助)が充実した結果、助け合い(共助)が引っ込んでしまった
◇ ところが、行政の負担が大きくなって、弱体化した共助に福祉が返ってきているのが現在の状況



2. 助け合い力を強めるために ～ 3. 福祉は自助から始まる

▼「助け上手」と「助けられ上手」が揃って助け合いが始まる
◇ 困っている人がいたら「頼まれなくても聞ける」「頼まれたら聞ける」とい
う人が合計95%
◇ では、何故助け合いが始まらないかと言えば、自分が困った時に「助けて！と
言える」人が約5%しかないから(長野県須賀市での調査結果)
⇒ 出しやばりをつぶさない！そして自分から「お願い」と言うことが大事！



▼「助ける」と「助けられる」の2つの福祉活動がある
◇ 「助けられ上手」こそが自助である
◇ 助けられる体験をしないと「助け上手」にはならない/逆もまたしかり
◇ だから、ボランティア講座よりも助けられ上手講座を
⇒ 「助け上手」と「助けられ上手」の両方揃って免許皆伝！



6. 見守りから生活支援へ ～ 7. そして介護へ

▼地域では色々な形で見守りが行われている
◇ 一方で、「だいたい大丈夫」と言っている時はどこかに目が行き届いていない方がいる
⇒ マップをつくって他に見守っている人がいないか探してみよう！
▼介護さまでやっている「世話好きさん」がいる
◇ 親や家族の介護を経験した人がご近所で介護者を支えている例もある
◇ 誰でもできることではないが、こうした動きを探して難しい問題にも対応できる可能性がある
⇒ 「世話好きさん」は無理でも、これを後から支えるミッドフィルダー(つなぎ役)を頑張ろう！

当日の配布資料等がありますので、関心をお持ちの方は裏面のお問合せ先までご連絡ください！

※ 図表は全て木原先生の講演資料より。講演の概要を紹介する本記事の内容の責任は編集部にあります。

▼ニュースレター第25号の内容

引き続き皆さまの思い出等を募集します

今回は、主にふれあい見守り推進員の方々を対象に、見守り支援ネットワークの“思い出”を募集しましたが、これまでの10年の取組を総括するために、より多くの方から 実際の活動に関する情報を集めたいと考えています。

例) 見守り支援ネットワークの思い出(協力事業所編)

見守り支援ネットワークの協力者の中で最も数が多いのが協力事業所です。見守り支援ネットワークの拡大の原動力であり、気になる高齢者の情報等を常に数多く連絡していただいている協力事業所の皆さまの活動の全体像をここでまとめる必要があります！

協力事業所の登録数は・・・

1/2 事業所
(平成18年3月末現在)



41/2 事業所へ
(平成28年3月末現在)

例) 私が実施していた 見守り・声かけ の方法

「見守り支援ネットワーク 10 周年記念シンポジウム」では、人評市長の挨拶の中でかつて以下のような見守りの方法があったことが紹介されていました。こうした実際の活動方法に関する情報を、これから活動を始めようとする方にも収集・保存していきます。ここでご紹介したのは特例な例ですが、普通の人々のやり方や心得の情報も必要です！



対象高齢者(見守られる側)が読み終わった新聞を
ふれあい見守り推進員(見守る側)の自宅のポスト
に投函して受け取らせるというある事業所住居の事例



※こちらとご確認願っています

例) これからの見守り支援ネットワークへの期待

“思い出”だけでなく、これまでの活動を通じて感じた疑問点や改善の提案(協力事業所のスタッフからは「はがれてしまった等のお叱りでも結構です」など今後のネットワークのあり方を検討するための材料を是非お寄せください！)

是非 FAX やメールで上記の情報をお寄せください！過去に実施していた方法でも他の人(例えば活動を休止された方など)から聞いた話でも構いません。

ニュースレターに関する連絡・お問い合わせはこちらまで

日野市役所高齢福祉課在宅サービス係

電話：042-585-1111 (内線2421) / FAX：042-583-4198

E-mail: kouroi_zaitaku@city.hino.lg.jp

高齢者見守り支援ネットワーク担当 まで

(※) このお知らせは再生紙を使用しています。このお知らせを印刷するときは、資源ゴミとして出してください。

日野市高齢者見守り支援ネットワーク

ニュースレター 第25号 平成28年4月

ふれあい見守り推進員の皆さまにご協力いただき 見守り支援ネットワークの思い出をまとめました！

前号でお伝えした「見守り支援ネットワーク 10 周年記念シンポジウム」の開催にあわせて、年におかれあい見守り推進員の方々に見守り支援ネットワークの思い出を募集しました。

なんと 41 名の方から“思い出”を提出していただくことができたため、この内容をまとめて“思い出集”を作成しました。

“思い出”を提出していただいた皆さまにはこの冊を併せて御礼申し上げます。



どんな“思い出”が集まったのでしょうか？

“思い出”の募集は、A4 版の用紙を配布して記入していただくという形をとったのですが、用紙いっぱい書いてくださった方がとても多く、その内容も「実際に遭遇した出来事」「活動の喜びや悩み」「今後に向けた提案」など多岐にわたります。一部の内容を以下と紙面内側に抜粋して掲載していますので、是非ご覧ください！

見守り推進員をやりまして、早いもので10年という年月が経ったことにおどろいています。

⇒ 多くの方からこのような声が寄せられました。10年…本当に驚きです。

この様な組織がなかったとしても、近所同士のおつきあひの中では自然な事であったと思います。長年の間に導かれて来た、程良いおつきあひは本当に大切なこと、自分も又何時か逆の立場になるかも知れません。

⇒ そして、これぞ“見守り支援ネットワークの目指す姿”と捉えられる内容、このように方々に協力していただけていることに感謝です。

お互いに負担がかららないやり方は長く続けられると思います。出来るかぎり続けようと思っておりますので、よろしくお願い致します。

⇒ これも本当に嬉しい内容です。こちらこそよろしくお願ひします。

“思い出”の具体的な内容

集まった“思い出”の中には、活動の難しさや課題等を指摘する内容もありましたが、ここでは“良い話”を中心に一部の内容をご紹介します。

活動の喜びなど



「お宅の様子がおかしい」「様子を見るに値する高齢者がいる」という出来事に遭遇し、何とかならずチェックしたという報告がありました。これまで起こり続けていた出来事ですが、「見守り支援ネットワーク」の効果と、相手のことを気にかけ見守ることの大切さを改めて教えてくれるエピソードです。

- 活動を始めて2年ですが、様子の変化に気づくことが一度ありました。而戸が開いていた、洗濯物が干いた匂い等気になり確認と連絡がとれ入居されたことが確認出来たとしました。
- 日常生活の中で、行動を個人的に見ていた方が、近所の家の玄関に鍵を入れたまま連絡を待っていたため、即 相談支援センターに連絡して訪問で解決する事が出来ました。相談支援スタッフ一同の協力、決断に感謝しております。

「対象高齢者の顔の肉や生毛の様子が変わる・変色を覚えた」というコメントもとても多くありました。これらも、ふれあい見守り推進員さんと対象高齢者の良い関係を表すものにと感じます。

- 三人の方の見守りを経験し、他人から学ぶことの多い事をしみじみ感じました。長い人生を歩まれた方々で、うれしそうに話をされる姿、昔の知識のこを懐かしそうに話す中に、無駄な話を聞き流し、大事な話を聞けることが何よりでした。
- 私は一人の方しか活動しませんでした。若い方について教えていただきました。出来ていた事が出来なくなるのは早く、どうしても不安だということ。そのお話しの中で上手に運転をやり、資金面等一人暮らし、一つづつクリアしていく行動。親子関係だと話しながらも安心して笑って話していたこと、お話しを聞かずとも想像させていたことでした。

また、たくさんの方から新しい思い出や出来た活動の様子を教えてくださいました。それらの報告からは、対象高齢者の方と良い交流が行われていることが伺えます。実際に、対象高齢者の方から嬉しい一言や印象に残る言葉をかけられた方もいるようです。「もっと早くあなたと友達になれたかった」なんて推進員冥利につきますのではないのでしょうか。

- はじめの頃は、ご挨拶も気取っていらっしやいました。今では気軽に感じになり、本当の「見守り」になってきたように感じます。今は元々だが私のリズムまで生きてきて、生きがいにもなってきたように感じます。お元気ですと聞いています。
- 想像以上に「お宅の様子がおかしい」などの報告が来たり、いろいろな会話の中で私自身の知識や情報の域が広がるとも実感できたりしています。
- 月一回の訪問とはいえず、訪問日が短くなりまして「今日は来なくていいのかな」と思っていたり、楽しみにして下さっています。
- はかばかしくいってしまいましたが、五、六年経ってから「もっと早くあなたと友達になれたかった」と言われることです。その時は、「この人と本当に信頼関係を持つことができた」と思えました。私も感謝の気持ちでいっぱいでした。

活動の心得やコツ

「これが正解」というものがない人対人の活動です。相手の生活に入り込まないようにしている方、思い切って飛び込んで行くという方、大切な友達として接するようにしている方など様々なやり方があるようです。

- 私は特に相手の生活に入り込まず「さりげない見守り」を心掛けてきたつもりです。それが良かったのかと思います。訪問する曜日は、時間も一定しています。(はとんど) 常に感謝の気持ちを込めておきます。
- それとなく見守るというのはかえって新しいものです。失礼な言葉からピンポイント。ようこそお訪ねして下さいます。「私はここですーと暮らすのでよろしく」と。
- 8 人目になりますが、どの方の特徴も何回もかになると、大切な友達として接してきました。とても喜ばれます。「たわいもない話でも継続して下さる」と言うこともあります。「不安心時に私のひとりで喜ぶことも安心感になる」と思われました。

今後に向けた提案等



- 「見守り」の継続のためにはやはりご近所であることが一番大切では、何處も足を運ばず、お声かけして顔なじみになり易いと思います。洗濯物やお市面を干している時にベランダへお声かけできます。

このような指摘がある一方で、「例え近所であっても、もしもの時の対応に気が付いたり、対応しづらいのは難い」という指摘もありました。

こうした問題を克服するためには、現在の活動継続・改善しながら、さらに「見守りの網の目を細くすること」そして「お宅の様子がおかしい」などの早期のタイミングで様子の変化に気づき、必要な支援につなげていくことが重要で、「新聞や弁当の配達等による見守りを強化する」「生活状況等の話をさっさと聞ける」「おたより」を持って訪問をする」等の提案もいただいています。

さらに、今回集まったエピソードの中には「対象高齢者以外の方を見守っている」「身の回りで見守り支援ネットワークや介護保険の紹介をしている」、さらには「近所の中でサロン等の交流の場を設けている」「自治会で毎月おたより見守り推進員と話し活動を開いている」という方もいらっしゃいました。

- 見守りをするようになってからは、対象高齢者以外の方にも目が行きます。行動などを気にとめるようになっています。
- 見守りを始めてから、お年寄りの方にも、何の懸念もなく素直に話しかけられる様になりました。顔なじみも出てきています。
- お宅訪問の際、お一人暮らしの方から一日様と暮らさない日々があると言います。そこで毎週の皆さんとサロンを立ち上げ、週一で遊びたいお年寄りを集めていただいています。私自身も人生の福寿草のお話を楽しく話聞かせていただいています。

「安心していまいると暮らす暮らし」の笑顔に向けて見守りの輪がどんどん広がっています。身体的に活動が続けられそうにないという方も、無理なくできることがきっとあるはずです。ご近所の様子や気にかけている意識を持ち続けていただければ、それだけで見守り支援ネットワークの一員です。皆さま、今後ともよろしくお願ひいたします。

4-2-2 地域懇談会への参加

(1) 取組の概要

地域協働課が実施している地域懇談会は、市民自らがまちの魅力や課題を踏まえて「まちをこうしていこう！」アイデアを検討し、実現を目指すという点で見守り支援ネットワーク、特に「気にかけて運動」との親和性が高いものだと考えられます。そのため、前年度より地域包括支援センター等から連携の必要性が指摘されていました。

そこで平成27年度は、「ちょこっと声かけたい！」というアクションプランを検討しており、特に親和性が高いと思われる三沢中地区の地域懇談会に参加しました。

地域懇談会では、実際に懇談の輪に交じって参加者の方々の思いなどを確認したほか、最後の情報提供の時間（下記、プログラムのうち「6. 市からの報告」）をお借りして見守り支援ネットワークおよび気にかけて運動のPRを実施しました。

▼くらしの輪連絡会

開催日時	平成28年2月20日（土）
開催場所	三沢中学校
参加者	市民、地域包括支援センター、子育てカフェ、日野市社会福祉協議会、地域サポーター、地域協働課、（見守り支援ネットワーク事業の）委託事業者 約80名
プログラム	1. 開会 2. 懇談会の内容説明 3. アクションプラン（案）説明 「ちょこっと声かけたい！」 4. 懇談 ①各テーブルで懇談 ・どんな自分たちの活動で声かけできるか？ ・「声をかけたい」と思う人たちは？ ・安心して「声かけ」できる、されるには？ ②発表 5. 市長あいさつ 6. 市からの報告 7. 閉会 ※上記のうち、「6. 市からの報告」の中で、時間を借りて見守り支援ネットワークおよび気にかけて運動のPRを実施

4-3 事業PRの成果と課題

事業PR全体の実施状況を踏まえて今年度の成果と課題を以下の通り整理しました。

▼事業PR全体の成果と課題

成果	・今年度はこれまでと同様にニュースレターによる活動のPRを実施しました。 ・新たに地域懇談会に参加して（1 地区）気に向け運動のPRを実施したほか、見守り支援ネットワーク 10 周年シンポジウムについても市報等に開催案内を掲載し僅かながら一般の方にも参加してもらうことができました。
課題	・検討部会の中で地域包括支援センターから以下のような意見が出ています。 －各取組の内容を周知がもう少し必要 －シンポジウムについて「もっと一般の人に来て欲しかった」 ・一方で、ニュースレターは「その時々活動状況を報告する」という性格上、既存の取組を改めて紹介するのには不向きであり、一般の方へのPRを有効に進めることはできませんでした。 ・シンポジウムについては「もっと一般の方に参加して欲しかった」という声があり、PRや集客に改善すべき点がありました。
対応案	・一般層へのPRとして、見守り支援活動に関心のある不特定多数の方が参加できるシンポジウムのような取組を継続的に開催することが考えられます。（1-3「見守り・声かけ」の成果と課題と共通） ・見守り支援ネットワークについて全く知らない一般の方向けに、ニュースレターとは別の、既存の活動を紹介するチラシ・パンフレットを作成し、地区センターへの留置や上記シンポジウム、他事業の説明会等にて配布することが考えられます。

平成 27 年度
日野市高齢者見守り支援ネットワーク事業報告書

発行 平成 28 年 4 月

編集 日野市健康福祉部高齢福祉課

〒191-8686

東京都日野市神明 1-12-1

電話 042 (585) 1111 (代表)

<http://www.city.hino.lg.jp/>
